



Informatica® Multidomain MDM
10.4

リリースガイド

Informatica Multidomain MDM リリースガイド

10.4

2020 年 3 月

© 著作権 Informatica LLC 2001, 2020

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2020-06-05

目次

序文	8
Informatica のリソース.....	8
Informatica Network.....	8
Informatica ナレッジベース.....	8
Informatica マニュアル.....	8
Informatica 製品可用性マトリックス.....	9
Informatica Velocity.....	9
Informatica Marketplace.....	9
Informatica グローバルカスタマサポート.....	9
 第 I 部 : バージョン 10.4	10
 第 1 章 : 特記事項、新機能、変更内容 (10.4)	11
特記事項 (10.4)	11
サポートの変更.....	11
新機能 (10.4)	13
階層関係.....	13
ネットワークリレーション.....	14
チャートコンポーネント.....	14
プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成.....	15
複数タスクの管理.....	16
複数レコードの値の検索と置換.....	16
新規レコードのインポート.....	16
新規レコードと既存レコードのマッチング.....	17
タスクレビュープロセスのトリガ.....	17
カスタム Elasticsearch インデックス設定.....	18
検索フィルタ表示.....	18
ビジネスエンティティ、レコード、およびリレーションのアイコンと色.....	19
追加ページ.....	19
レコードビューのレイアウト設定.....	20
ビジネスエンティティビューのハイパーリンク.....	20
インストーラの改良点.....	20
Hub サーバーのプロパティ.....	21
プロセスサーバーのプロパティ.....	23
変更点 (10.4)	23
Elasticsearch インストーラ.....	23
アプリケーションエディタ.....	23
検索可能なフィールドオプション.....	23
検索クエリ結果オプション.....	23
Hub コンソールの起動.....	24

通信プロトコル.	24
マージ解除.	24
Hub サーバーの廃止されたプロパティ.	24
プロセスサーバーの廃止されたプロパティ.	25
第 II 部 : バージョン 10.3.	26
第 2 章 : 新機能と変更 (10.3 HotFix 2)	27
新機能 (10.3 HotFix 2)	27
[一致したレコード] ビューでの複数レコードの選択.	27
検索結果での保留中レコードアイコン.	28
Informatica Address Doctor バージョン 5.16.	28
変更内容 (10.3 HotFix 2)	28
改良されたデータベース読み取りクレンジング関数.	28
特殊文字を使用したクエリ検索.	28
Oracle データベースへの SSL 接続.	29
スマート検索での最新の検索エンティティの保存.	29
Java 仮想マシンの設定.	29
データ暗号化.	30
第 3 章 : 新機能と変更 (10.3 HotFix 1)	31
Oracle Database 18c のサポート.	31
Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート.	31
IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート.	32
JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート.	32
Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート.	32
日付形式.	32
ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー.	33
カスタムタスクアクションメッセージ.	34
プロビジョニングツールパフォーマンスの向上.	34
メッセージトリガの拡張.	34
保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張.	34
Hub サーバーのプロパティ.	35
グローバルプロパティ.	35
Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定 (JBoss 向け)	36
変更内容 (10.3 HotFix 1)	36
タスクインボックス.	36
関連レコードコンポーネント.	37
リソースキット変更.	37
第 4 章 : 新機能と変更点 (10.3)	38
MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に.	38
ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能.	38

ビジネスエンティティの検索とクエリ	38
更新後の Data Director のルックアンドフィール	39
Data Director のローカリゼーション	40
レコードビューのレイアウト	41
類似するレコードコンポーネント	42
[一致するレコード] ビュー	42
[相互参照レコード] ビュー	43
タスクマネージャ	43
マージタスク	43
レコードへのファイルの添付	43
タスクへのファイルの添付	43
タスクのコメントと添付	44
ビジネスエンティティのセキュリティ	44
サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能	46
更新後の Data Director のルックアンドフィール	46
タスクへのファイルの添付	47
バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ	48
バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ	49
グローバルプロパティ	50
変更点 (10.3)	50
用語の変更	50
Apache Solr を使用した検索の廃止	50
タスクインボックス	51
タスクマネージャ	51
リソースキット	51
第 III 部 : バージョン 10.2	52
第 5 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 4)	53
新機能 (10.2 HotFix 4)	53
Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5	53
変更内容 (10.2 HF4)	53
MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に	53
第 6 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 3)	54
新機能 (10.2 HotFix 3)	54
スマート検索用 Java 仮想マシンの設定	54
REST API 改良点	54
メッセージトリガの拡張	55
変更内容 (10.2 HotFix 3)	55
リソースキット変更	55

第 7 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 2) 56

新機能 (10.2 HotFix 2)	56
Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 のサポート	56
Oracle WebLogic T3S プロトコルのサポート	56
プロセスサーバーのプロパティ	56
Hub サーバーのプロパティ	57
Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化	57
グローバルプロパティ	57
保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張	58
日付形式の機能拡張	58
[開始] ワークスペースの拡張	58
設定自動化ツールの機能拡張	59
変更内容 (10.2 HotFix 2)	59
ユーザーイグジットの機能拡張	59
Hub 状態インジケータが PUT 可能でない	59

第 8 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 1) 60

新機能 (10.2 HotFix 1)	60
履歴ビューの改良点	60
ビジネスエンティティへのアクセスの制限	60
外部キーカラムへのデータの取り込み	61
SearchQuery 要求のパフォーマンス最適化	61
バッチグループのジョブ履歴	61
メッセージキューのポーリングの無効化	61
グローバルプロパティ	62
MDM サポートツール	62
バッチマージ解除ジョブのパフォーマンスの最適化	63
検索結果から 1 つのレコードをエクスポートするオプション	63
ビジネスエンティティサービスの改良点	63
レガシー XML JMS メッセージのメッセージ ID	64
WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 のサポート	64
Informatica AddressDoctor バージョン 5.10	64
インターネットプロトコルバージョン 6	64
変更 (10.2 HotFix 1)	64
プロキシロール	64
リソースキットから削除された Jaspersoft	64
[NULL の更新を許可する] プロパティ	64
BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト	65
プロセスサーバーの廃止されたプロパティ	65

第 9 章 : 新機能と変更点 (10.2) 66

新機能 (10.2)	66
------------------	----

Informatica Data Director の Hub サーバーのプロパティ.	66
パスワードのハッシュ化.	66
セキュリティ設定ユーティリティ.	67
プロビジョニングツールでの機能拡張.	67
レイアウトデザイナー.	67
DaaS プロバイダコンポーネント.	67
Data as a Service プロバイダとの統合.	67
多対多のリレーション.	68
ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウト.	68
[相互参照レコード] ビュー.	68
履歴ビュー.	68
[一致するレコード] ビュー.	69
タイムラインビュー.	69
DaaS 用のビジネスエンティティサービス.	69
リレーション管理用のビジネスエンティティサービス.	70
ビジネスエンティティサービスの機能拡張.	70
BVT バージョンの抽出.	71
未処理インデックスインジケータ.	71
検索結果のソート.	71
WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 のサポート.	71
Oracle GoldenGate 12 のサポート.	71
ActiveVOS データベース接続の詳細.	72
リソースキット.	72
マニュアル.	72
Informatica プラットフォームログ.	73
変更点 (10.2)	73
ライセンスファイル.	73
MDM Hub ユーザーの電子メールアドレス.	73
ソースシステムキーの保持.	73
メタデータキャッシュ.	74
レイアウトエディタ.	74
マージ解除.	74
マージタスク.	74
トランスフォーメーション.	74
リソースキット.	75
保留状態のビジネスエンティティ.	75
iPad および iPhone 用の MDM アプリの廃止.	75
ビジネスエンティティスキーマの生成.	75
プロキシロール.	75

序文

Informatica^(R) *Multidomain MDM* のリリースガイドを読んで、新機能と改良点、バージョン間の動作の変更、サポートの変更について確認してください。リリースガイドには、以前のバージョンからアップグレードした後に完了する必要があるタスクに関する情報も含まれています。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

パート I: バージョン 10.4

- [特記事項、新機能、変更内容（10.4）, 11 ページ](#)

第 1 章

特記事項、新機能、変更内容 (10.4)

この章では、以下の項目について説明します。

- [特記事項 \(10.4\) , 11 ページ](#)
- [新機能 \(10.4\) , 13 ページ](#)
- [変更点 \(10.4\) , 23 ページ](#)

特記事項 (10.4)

サポートの変更

この節では、バージョン 10.4 のサポートの変更点について説明します。

Apache Solr を使用した検索のサポート終了

バージョン 10.4 では、Apache Solr を使用した検索のサポートを終了しました。Apache Solr を使用した検索を使用している場合は、Elasticsearch を使用した検索の使用を開始する必要があります。

Elasticsearch を使用した検索の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 設定ガイド*』および<バージョン>からの『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のアップグレードのガイド*』を参照してください。

オペレーティングシステムのサポート終了

バージョン 10.4 では、Oracle Solaris および HP-UX オペレーティングシステムのサポートを終了しました。Oracle Solaris または HP-UX を使用している場合は、サポート対象のオペレーティングシステムを使用する必要があります。

サポート対象のオペレーティングシステムの詳細については、Informatica Network の製品可用性マトリックスを参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>

Adobe Flash Player のサポート廃止

バージョン 10.4 では、Adobe Flash Player のサポートは廃止されました。Adobe は、2020 年末に Flash Player のサポートを終了すると発表しました。

Adobe Flash Player が必要なサブジェクト領域を使用する Data Director を使用している場合、ビジネスエンティティを使用する Data Director に移行することをお勧めします。

ビジネスエンティティを使用する Data Director への移行については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director 移行ガイド*』を参照してください。

サブジェクト領域を使用する Data Director のサポート廃止

サブジェクト領域を使用する Data Director のサポートは廃止されました。今後のリリースでは、サブジェクト領域を使用する Data Director のサポートは削除される予定です。

サブジェクト領域を使用する Data Director を使用している場合、ビジネスエンティティを使用する Data Director に移行することをお勧めします。

新規のお客様は、サブジェクト領域を使用する Data Director を使用しないでください。ビジネスエンティティを使用する Data Director を使用する必要があります。

ビジネスエンティティを使用する Data Director への移行については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director 移行ガイド*』を参照してください。

Informatica Platform ステージングのサポート廃止

バージョン 10.4 では、データ統合サービスを使用する Informatica Platform ステージングのサポートは廃止されました。今後のリリースでは、Informatica Platform ステージングのサポートも廃止される予定です。

Informatica Data Integration および Informatica Data Quality を使用して、データを MDM Hub ステージングテーブルに直接ロードできます。これには、ステージングテーブルへの変更を Informatica Data Integration および Informatica Data Quality リポジトリと手動で同期する必要があります。

Blowfish 暗号化のサポート廃止

バージョン 10.4 では、Blowfish 暗号化のサポートは廃止されました。今後のリリースでは、Blowfish 暗号化のサポートは削除される予定です。

Blowfish 暗号化は、セキュリティ証明書ベースの暗号化メカニズムに置き換えられました。証明書は、インストールおよびアップグレードプロセス中に生成されます。

API で Blowfish を使用してデータベースのパスワードを復号化する場合は、証明書ベースの暗号化メカニズムを使用するように API を更新することをお勧めします。

Zero Downtime (ZDT) アップグレードの保留サポート

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM の認証モードが変更されたため、Zero Downtime (ZDT) アップグレードは保留され利用できません。

今後のリリースで、ZDT を使用したアップグレードを再開する予定です。ZDT モジュールを購入した場合は、ZDT が利用可能になるのを待ってからアップグレードすることをお勧めします。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

新機能（10.4）

階層関係

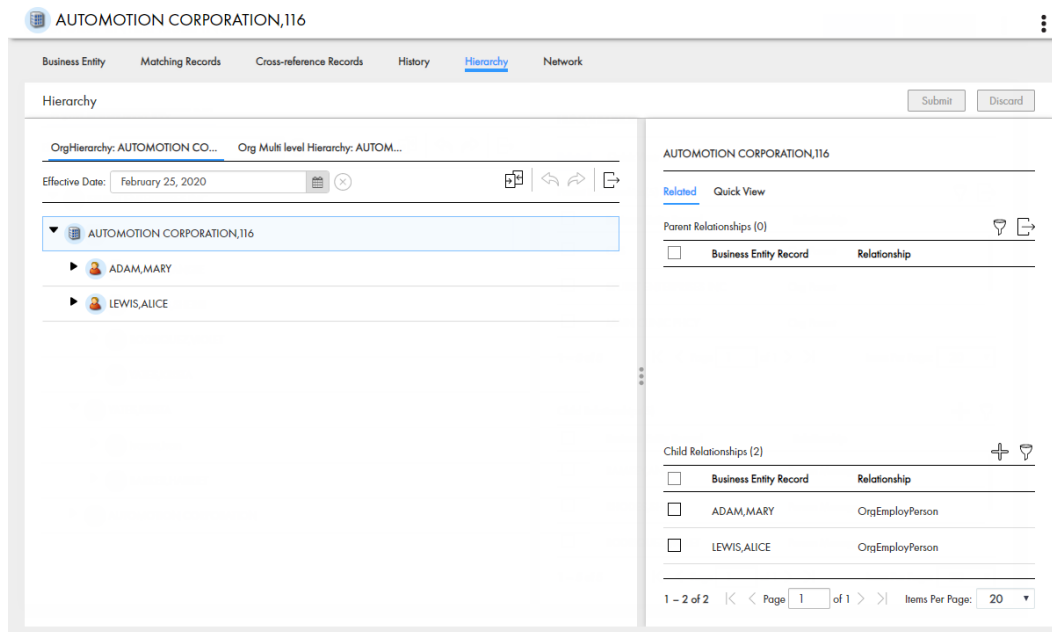
プロビジョニングツールでは、階層リレーションを作成して、ビジネスエンティティ間の階層リレーションを定義できます。次に、ビジネスエンティティ間に定義された階層リレーションを使用して、Data Director のレコード間の階層リレーションを設定します。

Data Director では、【階層】ビューを使用して、レコードの階層リレーションを表示、作成、管理します。有効日の階層のリレーションを表示できます。または、現在の階層を、有効日または履歴日の階層のバージョンと比較できます。階層をエクスポートすることもできます。

プロビジョニングツールでは、タスクとトリガを設定して、Data Director の階層への変更が承認ワークフローを確実に通過するようにすることができます。その後 Data Director で、承認のために変更を送信すると、確認者は変更を保存された階層と比較できます。

プロビジョニングツールでは、【階層】ビューの【クイックビュー】タブを設定することもできます。その後 Data Director で、タブを使用して階層内のレコードの詳細を表示できます。

次の図は、Data Director の【階層】ビューを示しています。



REST API を使用して階層リレーションにアクセスすることもできます。

Hub コンソールの階層マネージャでリレーションを持つ顧客をアップグレードするには、プロビジョニングツールを使用してリレーションをコピーし、それらを階層リレーションまたはネットワークリレーションとして作成します。次に、エンティティベースオブジェクトをベースオブジェクトに戻します。ベースオブジェクトに戻した後、プロビジョニングツールで新しい階層リレーションまたはネットワークリレーションを作成できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のアップグレードガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

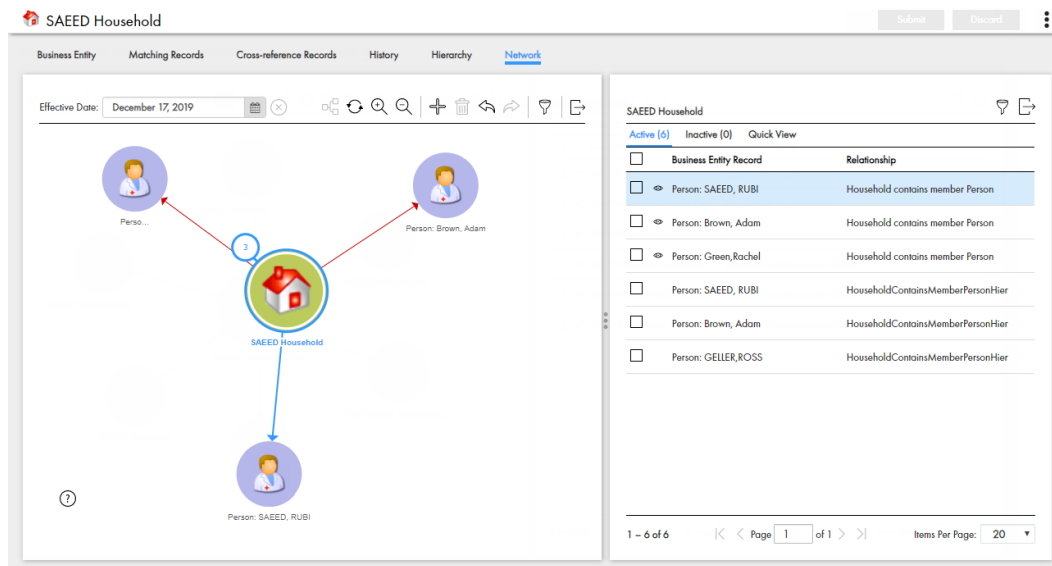
ネットワークリレーション

プロビジョニングツールでは、ネットワークリレーションを作成して、関連するビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。次に、ビジネスエンティティ間に定義されたネットワークリレーションを使用して、Data Director のレコード間のネットワークリレーションを設定します。

Data Director では、[ネットワーク] ビューを使用して、レコードのリレーションのネットワークを表示、作成、管理します。有効日のネットワーク内のリレーションを表示できます。または、ネットワーク内のリレーションを表示または非表示にすることができます。ネットワークグラフをエクスポートすることもできます。

プロビジョニングツールでは、[ネットワーク] ビューの [クイックビュー] タブを設定することができます。その後 Data Director で、タブを使用してネットワーク内のレコードの詳細を表示できます。

次の図は、Data Director の [ネットワーク] ビューを示しています。



REST API を使用してネットワークリレーションにアクセスすることもできます。

Hub コンソールの階層マネージャでリレーションを持つ顧客をアップグレードするには、プロビジョニングツールを使用してリレーションをコピーし、それらを階層リレーションまたはネットワークリレーションとして作成します。次に、エンティティベースオブジェクトをベースオブジェクトに戻します。ベースオブジェクトに戻した後、プロビジョニングツールで新しい階層リレーションまたはネットワークリレーションを作成できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

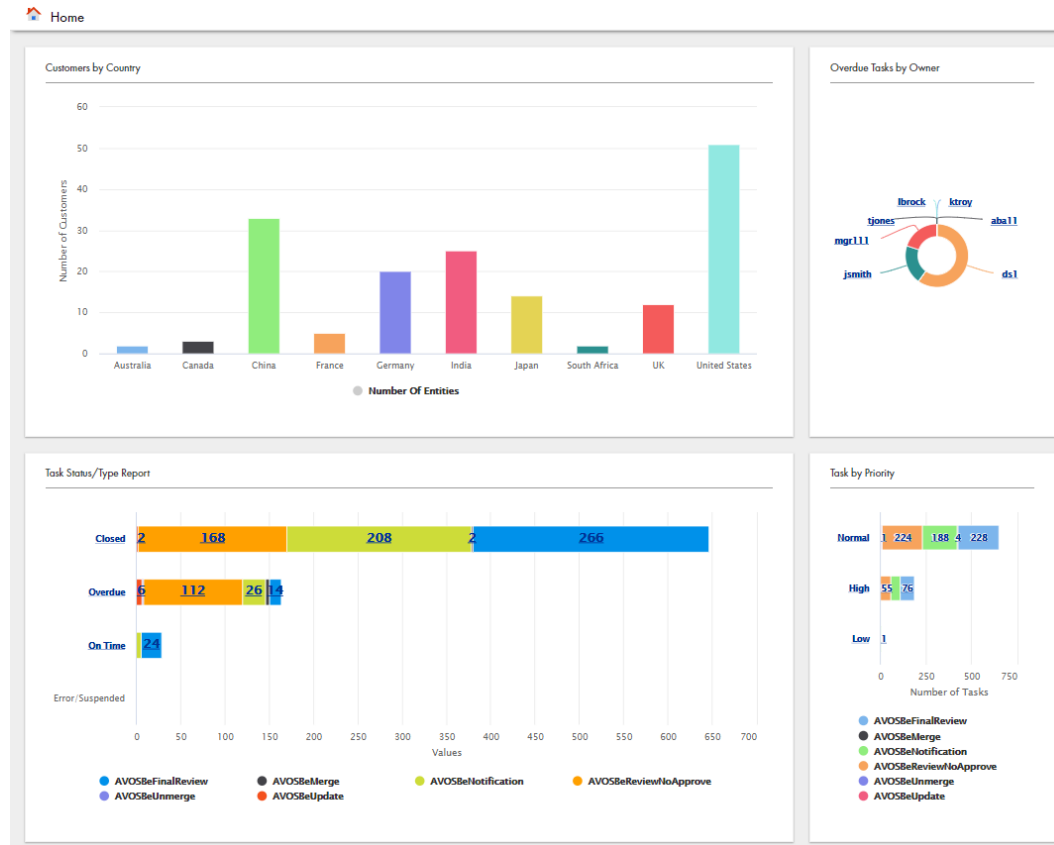
チャートコンポーネント

プロビジョニングツールでは、チャートコンポーネントを作成できます。チャートコンポーネントは、ビジネスエンティティのレコード、タスク、またはマスターデータについて収集したその他の種類の情報に関するデータをグラフィカルに表示します。

チャートコンポーネントを作成するときに、表示するチャートの外観とチャートの種類を設定します。デフォルトレポートまたはカスタムレポートから収集したデータをチャートに入力します。チャートで使用するレポートデータをフィルタリングおよびグループ化できます。チャートのデータをドリルダウンチャートや、[クエリ] タブ、[検索] タブ、タスクマネージャなどの Data Director の別のインターフェースにリンクすることもできます。

カスタムホームページレイアウトまたは追加のページレイアウトを設計するときに、チャートコンポーネントを追加できます。ユーザーが Data Director でカスタムホームページまたは追加のページを表示すると、チャートが表示されます。

次の図は、チャートコンポーネントを含むサンプルのホームページを示しています。



REST API を使用して、デフォルトのレポートを操作し、カスタムレポートを作成することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成

プロビジョニングツールを使用して、サンプルデータセットと一致トレーニングに基づいて一致ルールセットを作成できます。

一致トレーニングプロセス中に、サンプルデータセットから一致するペアをいくつかレビューして、ペアが一致するかどうかを確認します。レビュー後、一致エンジンは信頼度スコアを含む一致ルールセットを作成します。一致信頼度スコアが低い場合は、一致信頼度スコアが高くなるまで一致エンジンを再トレーニングします。

プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成の詳細については、*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*を参照してください。

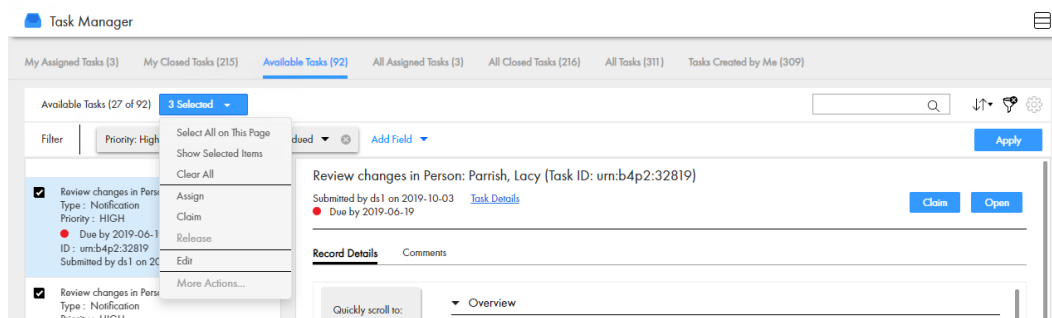
複数タスクの管理

Data Director では、タスク管理アクションを実行してタスクを管理できます。複数タスクを割り当て、クレーム、解放、または編集できます。また、承認、拒否、否認などのアクションを複数のタスクに対して実行することもできます。

実行できるタスク管理アクションは、ロールによって異なります。すべてのユーザーは、自分のユーザーロールで使用可能なタスクを管理できます。タスク管理者ロールを割り当てられたユーザーは、すべてのタスクを管理できます。タスク管理者ロールは、MDM Hub で作成してユーザーに割り当てた後、プロビジョニングツールで有効にすることができる新しい役割です。

フィルタまたは検索を使用して、管理するタスクを見つけることができます。例えば、John Smith のレコードに関連する優先度の高いタスクを見つけたい場合があります。

次の図は、タスクマネージャと実行可能なタスク管理アクションの例を示しています。



REST API を使用してタスクを管理することもできます。管理するタスクを見つけるには、タスクの一覧 API でクエリ検索パラメーターを使用できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

複数レコードの値の検索と置換

Data Director では、レコード全体で複数の値を検索および置換することができます。例えば、性別 ID が記録されていないすべてのレコードを置換するとします。レコードを検索して、正しい性別で置き換えます。検索と置換操作により、確認ワークフローがトリガされ、承認タスクが作成されます。特権を持つユーザーは、タスクを承認する必要があります。

バルク編集を実行するには、ユーザーロールに検索-置換特権が必要です。複数の値を置き換えた後、ジョブを表示し、バルク編集の集計レポートをダウンロードします。

REST API を使用して、レコード全体の値を検索および置換することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

新規レコードのインポート

Data Director では、Excel または CSV ソースファイルから新規データとリレーションを一括でインポートできます。Data Director は人工知能を使用して、ソースファイルフィールドを識別し、最適なターゲットフィールドにマッピングします。データをインポートまたは更新した後、**【マイジョブ】** 機能を使用して、インポートサマリレポートを表示およびダウンロードします。

REST API を使用して、新規データとリレーションを一括でインポートすることもできます。

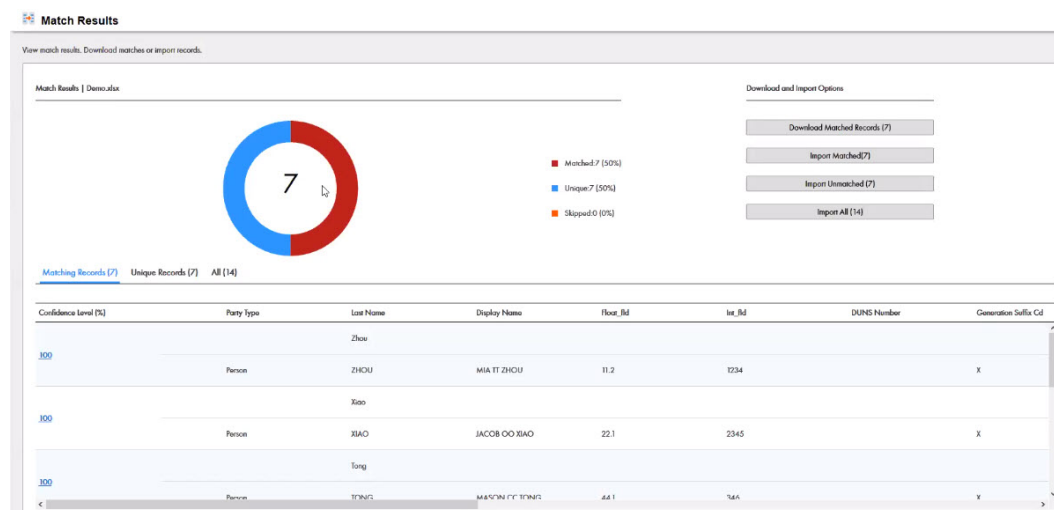
詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

新規レコードと既存レコードのマッチング

Data Director では、インポートしたレコードを既存のレコードと比較できます。一致プロセスは、一致したレコードと一致しないレコードを識別します。一致しないレコードをインポートしたり、レコードを削除したり、すべてのレコードをインポートしたりできます。

ファイルをインポートした後、Data Director は、一致したレコード、一意のレコード、スキップされたレコード、およびすべてのレコードを表示する一致結果を生成します。結果を確認して、インポートまたはダウンロードするレコードを決定できます。

次の図は、新しいレコードをインポートして既存のレコードと比較した後の一致結果の例を示しています。



REST API を使用してインポートしたレコードを照合することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

タスクレビュープロセスのトリガ

ユーザーが新規レコードを更新およびインポートしたときにレビューワークフローをトリガするようにタスクを設定できます。ワークフローは、マネージャなどの権限を持つユーザーロールによって確認されます。プロビジョニングツールを使用して、レビューワークフローを設定します。

レコードの更新

ユーザーが Data Director のレコードを更新すると、変更によりレビュープロセスがトリガされます。変更に同意する場合は、レコードの更新を承認できます。

ユーザーが更新してレビューワークフローをトリガできるレコードの最大数を設定できます。例えば、ワークフローをトリガする新規レコードの数を 10 に設定します。ユーザーが 10 件以下のレコードを更新すると、レビューワークフローがトリガされます。ユーザーが 10 件を超えるレコードを更新しようすると、レビューワークフローはトリガされず、エラーメッセージが表示されます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

新規レコードのインポート

ユーザーが Data Director に新規レコードを含むファイルをインポートすると、変更によりレビュープロセスがトリガされます。変更に同意する場合は、新規レコードを承認できます。

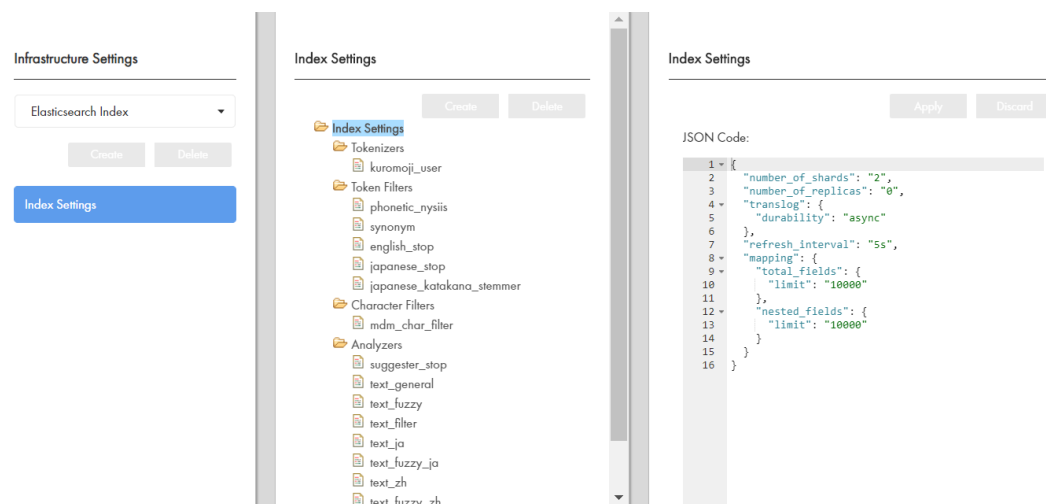
ユーザーがインポートしてワークフローをトリガできる新規レコードの最大数を設定できます。例えば、ワークフローをトリガする新規レコードの数を 5 に設定します。ユーザーが 5 件以下のレコードをインポートすると、レビューワークフローがトリガされます。ユーザーが 5 件を超えるレコードをインポートしようすると、レビューワークフローはトリガされず、エラーメッセージが表示されます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

カスタム Elasticsearch インデックス設定

Informatica が提供する Elasticsearch インデックス設定が要件を満たしていない場合は、プロビジョニングツールを使用してカスタム Elasticsearch インデックス設定を作成します。Elasticsearch インデックスのカスタムアナライザ、トークナイザ、トークンフィルタ、および文字フィルタを設定できます。

次の図は、[インフラストラクチャの設定] ページを [インデックス設定] ツリービューと [インデックス設定] ノードの JSON コードとともに示しています。



Elasticsearch インデックス設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.4 Provisioning Tool Guide*』および『*Multidomain MDM Version 10.4 Configuration Guide*』を参照してください。

検索フィルタ表示

プロビジョニングツールを使用して、検索フィルタと、それらが Data Director の [検索] ページに表示される順序を設定します。特定のアプリケーションおよび関連するビジネスエンティティの検索フィルタと表示順序を設定できます。

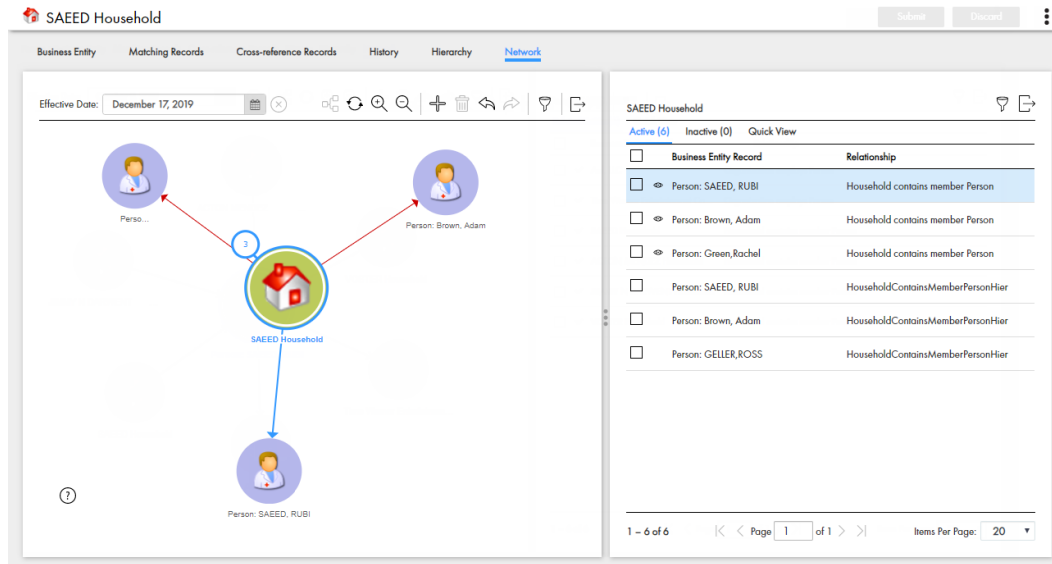
以前のバージョンからアップグレードする場合、フィルタは既存のアプリケーションの設定に表示されるのと同じ順序で表示されます。アップグレード後、検索フィルタの表示順序を変更することを選択できます。

検索の設定の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティ、レコード、およびリレーションのアイコンと色

プロビジョニングツールでビジネスエンティティをモデル化する場合、Data Director でビジネスエンティティを表すために使用する色とアイコンを設定できます。ビジネスエンティティレコードを表すために使用するアイコンを設定することもできます。階層リレーションまたはネットワークリレーションを定義する場合、リレーションの色を定義できます。Data Director では、レコードを操作するとき、または【階層】ビューと【ネットワーク】ビューでリレーションを表示するときに、色とアイコンの設定が表示されます。

次の図は、SAEED Household のアイコンが表示された【ネットワーク】ビューを示しています。

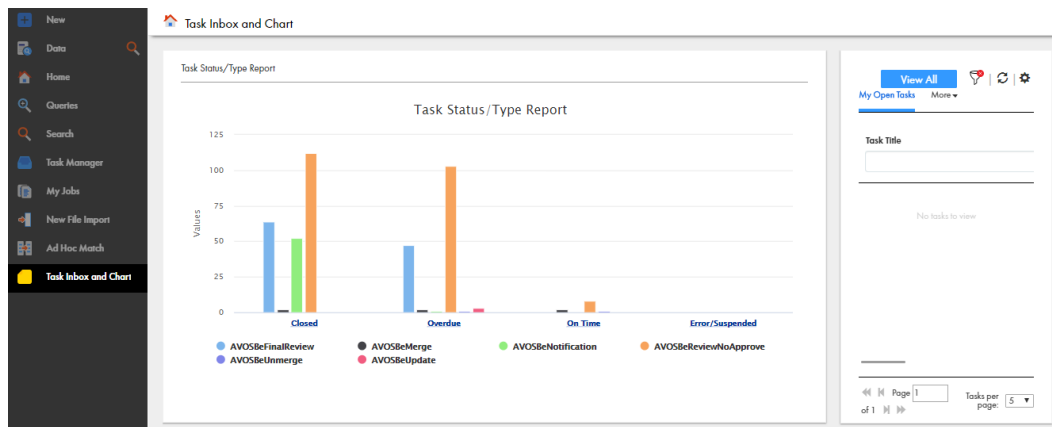


追加ページ

プロビジョニングツールを使用して、レイアウトデザイナーで追加ページのレイアウトを作成し、ユーザーが必要とする詳細情報へのアクセスを提供できます。例えば、ユーザーがより多くのチャートや外部 Web アプリケーションにアクセスするのを支援するために、プライマリコンポーネント、セカンダリコンポーネント、カスタムコンポーネントを含む追加ページを設計できます。

追加ページのレイアウトを作成する際は、目的とアクセスを指定します。例えば、マネージャユーザーロールのタスクインボックスとチャートを含む追加ページを設計できます。

次の図は、【タスクインボックス】コンポーネントと【チャート】コンポーネントが設定された Data Director の追加ページの例を示しています。



追加ページの作成と更新の詳細については、『*Multidomain MDM* バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド』を参照してください。

レコードビューのレイアウト設定

レコードビューのレイアウトを設定して、単一のビジネスエンティティのフィールドをレイアウト内の複数のコンポーネントに分散させることができます。

レコードビューのレイアウト設定の詳細については、『*Multidomain MDM* バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド』を参照してください。

ビジネスエンティティビューのハイパーリンク

Data Director では、ビジネスエンティティビューは、一部のタイプのテキストをハイパーリンクとして表示できます。ビジネスエンティティフィールドのテキストをハイパーリンクとして表示するには、プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデルのフィールドを設定します。

ビジネスエンティティフィールドの次のタイプのテキストは、ハイパーリンクとして表示できます。

- Web URL
- ファイル URI
- FTP リンク
- 電子メールアドレス

ハイパーリンクの設定の詳細については、『*Multidomain MDM* バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド』を参照してください。

インストーラの改良点

Multidomain MDM のインストーラが更新され、ユーザーエクスペリエンスが向上しています。

インストーラには、次の改良点が含まれています。

- インストールプロセスを簡略化するためにユーザーインターフェースのテキストを改訂
- 正しいフィールド値を理解して提供するのに役立つ、新規および改訂されたヘルプテキスト
- 新しいウィンドウ、**Hub コンソールのサーバー詳細の設定**。Hub コンソールが Hub サーバマシンに接続するために必要なサーバーの詳細を指定できます。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

`cmxserver.properties` ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

次の表に、10.4 で導入された Hub サーバーのプロパティを示します。

Hub サーバーのプロパティ	説明
<code>cmx.server.be-import.task-limit</code>	タスク承認ワークフローをトリガするためにユーザーがインポートできるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを <code>cmx.server.be-import.task-limit=10000</code> に設定した場合、ユーザーが最大 1 万件のレコードをインポートすると、タスク承認ワークフローがトリガされます。ユーザーが 1 万を超えるレコードをインポートしようとすると、タスク承認ワークフローはトリガされず、エラーが表示されます。
<code>cmx.server.find-replace.record-limit</code>	ユーザーが一括操作で検索および置換できるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを <code>cmx.server.find-replace.record-limit=10000</code> に設定した場合、ユーザーは最大 1 万件のレコードを検索および置換することができます。
<code>cmx.server.find-replace.task-limit</code>	タスク承認ワークフローをトリガする、置換されたレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを <code>cmx.server.find-replace.task-limit=500</code> に設定した場合、ユーザーが最大 500 件のレコードを置換すると、タスク承認ワークフローがトリガされます。ユーザーが 500 をを超えるレコードを置換しようとすると、エラーが表示されます。
<code>cmx.server.find-replace.entity-record-limit</code>	ユーザーが [スマート検索] 画面から [検索と置換] 画面にコピーできるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを <code>cmx.server.find-replace.entity-record-limit=1000</code> に設定した場合、ユーザーは [スマート検索] 画面から [検索と置換] 画面に最大 1 万件のレコードをコピーできます。ユーザーが 1 万を超えるレコードをコピーしようとすると、エラーが表示されます。
<code>cmx.file_import.job_group.ttl</code>	MDM Hub がファイルインポートジョブグループを保存してから削除するまでの最大時間を指定します。値の後にサフィックスを追加する必要があります。サフィックスのオプションは、 <code>day</code> 、 <code>hour</code> 、 <code>min</code> または <code>sec</code> です。例えば、プロパティを <code>cmx.file_import.job_group.ttl=180day</code> に設定した場合、インポートジョブグループは MDM Hub に 180 日間保存されます。
<code>cmx.file_import.job_group_control.ttl</code>	ファイルインポートジョブグループ管理ログを MDM Hub に保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、 <code>day</code> 、 <code>hour</code> 、 <code>min</code> または <code>sec</code> です。例えば、プロパティを <code>cmx.file_import.job_group_control.ttl=30day</code> に設定した場合、インポートジョブグループ管理ログは MDM Hub に 30 日間保存されます。

Hub サーバーのプロパティ	説明
cmx.file_import.mapping.temp.ttl	ファイルインポートマッピングを MDM Hub の一時ストレージに保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.mapping.temp.ttl=20min に設定した場合、インポートジョブマッピングは MDM Hub に 20 分間保存されます。
cmx.file_import.mapping.system.ttl	ファイルインポートマッピングを MDM Hub の永続ストレージに保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.mapping.system.ttl=20day に設定した場合、インポートジョブマッピングは MDM Hub に 20 日間保存されます。
activevos.jndi	オプション。手動で追加する必要があります。レポートサービスを ActiveVOS に接続するための JNDI ルックアップ文字列を指定します。デフォルトの JNDI ルックアップ文字列は java:/jdbc/ActiveVOS です。ActiveVOS EAR ファイルを編集して JNDI ルックアップ文字列をカスタマイズした場合は、このプロパティを使用してカスタム JNDI ルックアップ文字列を指定します。
cmx.match.training.confidence.threshold	オプション。プロビジョニングツールで一致ルールセットを作成するために必要な最小の一致信頼度スコアを指定します。
cmx.match.training.data.encoding	オプション。プロビジョニングツールでの一致トレーニングのエンコーディングを設定します。
cmx.server.hierarchy.max-search-depth	階層 REST API を使用して階層パスを検索するときに検索される最大深度。デフォルト値は 100 です。
cmx.server.hierarchy.max-search-width	階層 REST API を使用してエクスポートするときに含める検索される階層の最大幅。デフォルト値は 1000000 です。
com.informatica.mdm.bulk.relationship.changes.limit	一括タスク管理 REST API を使用するときの要求の変更の最大数。デフォルト値は 1000 です。
cmx.task.search.records.return	ユーザーがビジネスエンティティを使用して Data Director のタスクマネージャでタスクを検索するときの Elasticsearch ページネーションを制御します。デフォルトは 1000 です。
com.informatica.mdm.sifapi.xref.edit.sys0.only	管理ソースシステムを含むすべてのソースシステムを介して編集相互参照レコードを作成するかどうかを指定します。

Hub サーバーのプロパティ設定の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の設定ガイド*』を参照してください。

プロセスサーバーのプロパティ

プロセスサーバープロパティ `com.informatica.mdm.sifapi.xref.edit.sys0.only` を使用して、管理ソースシステムを含むすべてのソースシステムを介して編集相互参照レコードを作成するかどうかを指定します。
`cmxcleanse.properties` ファイルのプロパティを設定します。

プロセスサーバーのプロパティ設定の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の設定ガイド*』を参照してください。

変更点（10.4）

Elasticsearch インストーラ

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM インストーラパッケージに Elasticsearch インストーラは含まれません。Elasticsearch インストーラのサポート対象のバージョンを Elastic Web サイトからダウンロードする必要があります。

以前は、Elasticsearch インストーラは Multidomain MDM インストーラパッケージに含まれていました。

アプリケーションエディタ

バージョン 10.4 では、プロビジョニングツールの [アプリケーション] ページが拡張されました。検索結果を表示するように設定したビジネスエンティティビューが、ツリービューの **【検索構成】** に表示されます。ビジネスエンティティビューを検索結果用に設定した後、**【検索構成】** ノードを展開したり折りたたんだりできます。

以前は、検索結果を表示するように設定したすべてのビジネスエンティティビューが、[ツリービュー] パネルではなく、[プロパティ] パネルに一覧表示されていました。

アップグレードノート: 以前のバージョンからアップグレードする場合、検索結果を表示するように設定したビジネスエンティティビューは **【検索構成】** ノードの下に表示されます。

検索可能なフィールドオプション

バージョン 10.4 では、プロビジョニングツールには、ビジネスエンティティフィールドの **【検索可能】** フィールドオプション、**【言語】** と **【あいまい】** は含まれなくなりました。あいまい検索と検索文字列の言語を設定するには、Elasticsearch アナライザを設定します。

以前は、あいまい検索と検索文字列の言語を **【検索可能】** フィールドオプションとして設定できました。

【検索可能】 フィールドオプションと Elasticsearch アナライザの詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

検索クエリ結果オプション

バージョン 10.4 では、保留中のレコードを表示または非表示にするように検索クエリ結果を設定できます。

以前は、検索クエリ結果に表示される保留中のレコードを非表示にすることができませんでした。

検索クエリ結果の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

Hub コンソールの起動

バージョン 10.4 では、Hub コンソールは JAR ファイルとしてクライアントデスクトップにダウンロードされます。Hub コンソールの URL とユーザーの資格情報は同じままです。

以前は、Hub コンソールは Java Web Start アプリケーションとしてクライアントデスクトップにダウンロードされていました。Oracle は Java Web Start をサポートしなくなりました。

通信プロトコル

バージョン 10.4 では、MDM 環境で EJB プロトコルはサポートされなくなりました。エンティティ 360 フレームワークに基づく Hub サーバーと Data Director の画面間の通信には、HTTP または HTTPS プロトコルを使用する必要があります。

通信プロトコルを設定するには、`-De360.connection.channel Java` オプションを使用します。

JVM の設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.4 Installation Guide*』および『*Multidomain MDM Version 10.4 Upgrade Guide*』を参照してください。

マージ解除

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM を設定して、管理ソースシステム以外のソースシステムの編集相互参照レコードを作成できます。これを設定した後は、すべてのソースシステムの PUT 呼び出し中に編集相互参照レコードが作成されます。ベースオブジェクトの他のすべての相互参照レコードが PUT 呼び出しの結果である編集相互参照レコードである場合、相互参照レコードはマージ解除されません。

以前は、編集相互参照レコードは、管理ソースシステムに対してのみ作成されていました。PUT 更新が管理ソースシステム以外のソースシステムからのものである場合、そのベースオブジェクトの他のすべての相互参照レコードが PUT 呼び出しの結果であったとしても、相互参照レコードはマージ解除されていました。これは、MDM が PUT 呼び出しの結果であるこれらの相互参照レコードを編集相互参照レコードとして識別しなかったためです。

Hub サーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.4 では、Java Web Start と Solr エンジンに必要であった Hub サーバーのプロパティは廃止されました。

Java Web Start は Hub コンソールを起動する必要があるため、次の Hub サーバードプロパティは廃止されました。

- `cmx.appserver.jnlp.protocol`
- `cmx.web.console.session.download.timeout`
- `jnlp.initial-heap-size`
- `jnlp.max-heap-size`

Solr はサポートされていないため、次の Hub サーバードプロパティは廃止されました。

- `cmx.ss.engine`
- `cmx.ss.dirtyIndex.disable`

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

プロセスサーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.4 では、Solr はサポートされていないため、次のプロセスサーバープロパティは廃止されました。

- `cmx.ss.engine`
- `solr.allowAdminConsole`
- `pingSolrOnStartup`
- `zookeeper.tickTime`
- `search.provisioning.maxshards`
- `facet.infacount`

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

パート II: バージョン 10.3

この部には、以下の章があります。

- [新機能と変更 \(10.3 HotFix 2\) , 27 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.3 HotFix 1\) , 31 ページ](#)
- [新機能と変更点 \(10.3\) , 38 ページ](#)

第 2 章

新機能と変更（10.3 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.3 HotFix 2）](#), 27 ページ
- [変更内容（10.3 HotFix 2）](#), 28 ページ

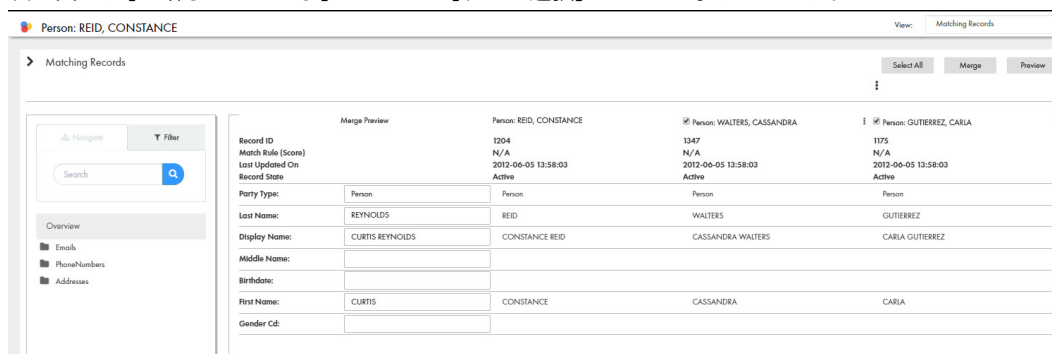
新機能（10.3 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.3 HotFix 2 の新しい機能について説明します。

【一致したレコード】ビューでの複数レコードの選択

【一致したレコード】ビューで、**【すべて選択】** ボタンをクリックして、複数レコードを選択できます。

次の図は、【一致したレコード】ビューの**【すべて選択】** ボタンを示しています。

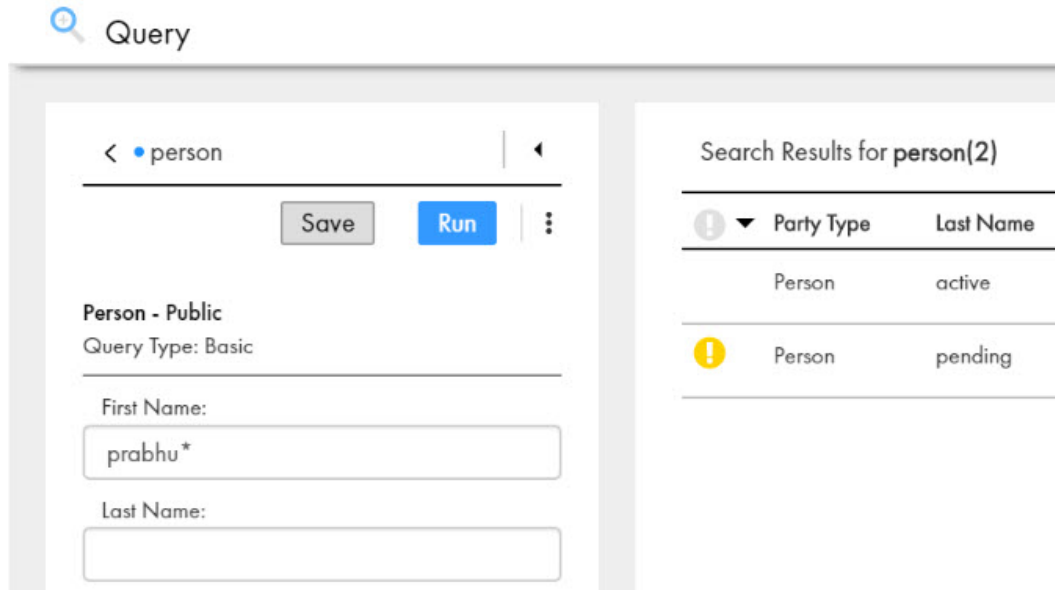


以前は、【一致したレコード】ビューでは、一度に1つのレコードしか選択できませんでした。

検索結果での保留中レコードアイコン

Data Director (Entity 360) で検索を実行すると、検索結果にアクティブなレコードと保留中のレコードが表示されます。保留中のすべてのレコードの横にアイコンが表示されます。保留中のすべてのレコードをソートできます。

次の図は、保留中ステータスのレコードの横に表示される保留中レコードアイコンを示しています。



以前は、Data Director (Entity 360) にはすべてのアクティブなレコードと保留中のレコードが一緒に表示され、レコードをソートすることができませんでした。

Informatica Address Doctor バージョン 5.16

Informatica MDM Multidomain Edition は Informatica AddressDoctor バージョン 5.16 をサポートしています。

変更内容 (10.3 HotFix 2)

改良されたデータベース読み取りクレンジング関数

データベース読み取りクレンジング関数は、プロセスサーバーがマルチスレッド環境で実行されるように設定されている場合、同時データマッピングをサポートします。

特殊文字を使用したクエリ検索

特殊文字を使用したクエリ検索を実行できます。検索結果には、特殊文字を含むすべてのレコードが表示されます。クエリ検索文字列の先頭、末尾、途中に特殊文字を使用します。例えば、James を検索したい場合は、Ja\$@!、または!\$%ES と指定します。

Oracle データベースへの SSL 接続

Oracle データベースへの接続は Secure Socket Layer (SSL) でセキュリティ保護されています。

c_repos_database.connect_url テーブルで、次の接続 URL を設定します。

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCPS)(HOST=localhost)(PORT=2484))
(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=orcl)))
```

以前のリリースでは、c_repos_database.connect_url テーブルに次の接続 URL を設定していました:

```
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl
```

。

スマート検索での最新の検索エンティティの保存

ユーザーログインセッションでスマート検索を使用してレコードをフィルタ処理し、ビジネスエンティティを選択できます。新しいユーザーセッションにログインすると、検索結果に前回のログインセッションのフィルタ値が表示されます。

Java 仮想マシンの設定

Data Director および Entity 360 アプリケーションを MDM Hub サーバーに接続するために、次の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

完全修飾ドメイン名

ご使用の環境が HTTPS 通信プロトコルを使用し、セキュリティ証明書が完全修飾ドメイン名 (FQDN) に対して発行されている場合は、以下の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

-De360.mdm.host

セキュリティ証明書に表示される FQDN を指定します。

接続プロトコル

Entity 360 アプリケーションを MDM Hub サーバーに接続するために、次の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

-De360.connection.channel

Entity 360 アプリケーションが MDM Hub サーバーと通信するために使用する通信プロトコルを指定します。使用する通信プロトコルが EJB、HTTP、HTTPS のいずれであるかを指定します。デフォルトは、*-De360.connection.channel=http* です。サポートするアプリケーションサーバーホストプロパティ *-De360.connection.channel=http* を設定していることを確認してください。サポートするアプリケーションサーバーホストプロパティ *-De360.mdm.host* とアプリケーションサーバーポートプロパティ *-De360.mdm.port* をデフォルト値に設定していることを確認してください。

次のアプリケーションサーバーホストおよびポートの Java オプションを設定する必要があります。

-De360.mdm.host

Entity 360 アプリケーションサーバーホスト。Java オプションによって使用されるホストを指定します。

-De360.mdm.port

Entity 360 アプリケーションサーバーポート。競合を避けるために、JVM のデフォルトポートを使用することをお勧めします。

JVM の設定に関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 2 Installation Guide*』および『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 2 Upgrade Guide*』を参照してください。

データ暗号化

バージョン 10.3 HotFix 2 から、暗号化された一致カラムをあいまい一致およびあいまい検索操作に安全に含めることができるようになりました。これらの操作に必要な一致フィールドをデータ暗号化プロパティファイルで設定します。

以前は、暗号化された一致カラムはあいまい一致操作には含まれていませんでした。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

第 3 章

新機能と変更（10.3 HotFix 1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [Oracle Database 18c のサポート, 31 ページ](#)
- [Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート, 31 ページ](#)
- [IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート, 32 ページ](#)
- [JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート, 32 ページ](#)
- [Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート, 32 ページ](#)
- [日付形式, 32 ページ](#)
- [ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー, 33 ページ](#)
- [カスタムタスクアクションメッセージ, 34 ページ](#)
- [プロビジョニングツールパフォーマンスの向上, 34 ページ](#)
- [メッセージトリガの拡張, 34 ページ](#)
- [保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張, 34 ページ](#)
- [Hub サーバーのプロパティ, 35 ページ](#)
- [グローバルプロパティ, 35 ページ](#)
- [Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定（JBoss 向け）, 36 ページ](#)
- [変更内容（10.3 HotFix 1）, 36 ページ](#)

Oracle Database 18c のサポート

Oracle Database 18c は Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 でサポートされています。

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform（EAP）7.1 で Multidomain MDM を展開する必要があります。Red Hat for JBoss EAP 6.x のメンテナンスサポートの終了日は 2019 年 6 月です。Red Hat からサポート、バグフィックス、セキュリティパッチを継続的に受けるには、JBoss EAP 7.1 および Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 にアップグレードすることをお勧めします。Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 はバージョン 7.1 よりも前の JBoss EAP をサポートしていません。

IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート

IBM WebSphere アプリケーションサーバーバージョン 9.0 Fix Pack 10 で Multidomain MDM を展開する必要があります。Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 は、バージョン 9.0 Fix Pack 10 よりも前の WebSphere をサポートしていません。

JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート

JBoss アプリケーションサーバー環境の Red Hat OpenJDK 8 で Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 を実行できます。

Red Hat OpenJDK 8 でサポートされているプラットフォームの詳細については、製品可用性マトリックス (PAM) を参照してください。PAM には <https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> からアクセスできます。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート

Informatica ActiveVOS 9.2.4.5 は Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 でサポートされています。

日付形式

プロビジョニングツールでアプリケーションエディタを使用すると、Data Director アプリケーションで使用されるデフォルトの日付形式を設定できます。また、ビジネスエンティティおよび参照エンティティモデルの特

定の日付フィールドで、表示形式を「日付」または「日時」に設定することもできます。設定した日付形式はすべてのレコードビューに表示されます。

次の図に、「アプリケーション」ページの「デフォルトの表示形式」パネルの日付形式フィールドを示します。

The screenshot shows the 'Default Display Formats' panel for the 'MDM_Sample' application. The panel is titled 'Default Display Formats' and has 'Apply' and 'Discard' buttons. Below the title, it says 'Define your date and time formats by combining any of the following options:'. There are two columns of options: Year: yyyy or yy, Month: M, MM, MMM, or MMMM, Day of a month: d or dd, Day of a week: EEE or EEEE, Hour: H, HH, h, or hh, Minutes: m or mm, Seconds: s or ss, AM/PM: a, Timezone offset: Z, and Week number: w or ww. Below these options, there are two sections: 'Date Format' and 'Datetime Format'. The 'Date Format' section shows a text input field with 'yyyy-MM-dd' and a sample '2019-02-12'. The 'Datetime Format' section shows a text input field with 'yyyy-MM-dd HH:mm' and a sample '2019-02-12 17:43'.

これまでデフォルトの日付形式を設定するには、デフォルトの日付形式プロパティを含む bundleE360.properties ファイルを作成していました。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー

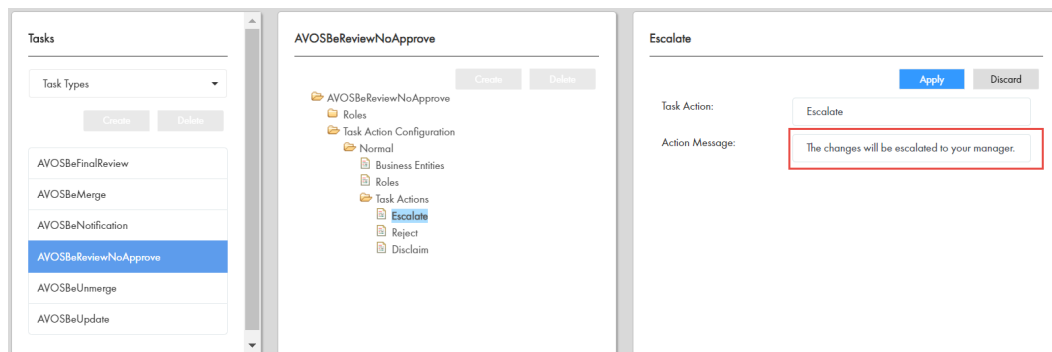
ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューをコピーして、一意の名前で保存することができます。コピーでは、元のビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのモデル全体が継承されます。コピーでは、必要に応じて、モデルに対するフィールドの追加、編集、および削除を行うことができます。

ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピーに関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

カスタムタスクアクションメッセージ

Data Director でタスクがトリガされたときに表示されるメッセージをカスタマイズできます。また、メッセージをローカライズできます。

次の図に、カスタムメッセージを含む【アクションメッセージ】フィールドを示します。



カスタムタスクアクションメッセージの設定およびローカライズに関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

プロビジョニングツールパフォーマンスの向上

応答時間を改善すると、プロビジョニングツールのパフォーマンスが向上します。プロビジョニングツールの変更は保存され、1分以内にパブリッシュされます。

メッセージトリガの拡張

相互参照レコードがリストアされると、MDM Hub は JMS メッセージキューに格納されたメッセージをトリガできます。相互参照レコードをリストアするイベントのメッセージトリガを設定するには、スキーママネージャを使用します。【メッセージトリガ】ページの【イベント】セクションで、【リストア】を選択します。これは、このセクションに含まれる新しいイベントです。

詳細については、『*MDM Multidomain Edition バージョン 10.3 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、getChangedChildren メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、ユーザーイグジットが削除した子レコードと更新した子レコードを組み合わせて返すことができます。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

com.siperian.dsapp.mde.common.idd2cocs.Many2ManyChild.name.version

手動で追加する必要があります。10.3 よりも前のバージョンからアップグレードした場合、MDM 管理者がビジネスエンティティスキーマを生成すると、一部の子レベルのサブジェクト領域名の大文字が小文字に変更されます。大文字と小文字を維持するには、プロパティを 10.2 に設定します。

cmx.server.put.autopopulate.missing.user.columns.bo.list

手動で追加する必要があります。ベースオブジェクトのカラムの [NULL 可能] プロパティを無効にした場合は、プロパティを設定します。

カラムの [NULL 可能] プロパティを無効にした場合は、Data Director または SIF PUT の操作中にレコードが更新されると、更新したフィールドの値のみを使用して相互参照レコードが作成されます。null 以外が指定されたフィールドを含む他のすべての相互参照レコードのフィールドには、null 値が使用されます。レコードの最善データ (BVT) の計算中、null 以外が指定されたフィールドで null 値を使用すると、エラーが発生します。

BVT の計算で null 以外が指定されたフィールドが考慮されるようにするには、プロパティ値を [NULL 可能] プロパティが無効にされたカラムを使用するベースオブジェクトの名前のカンマ区切りリストに設定します。プロパティが設定されると、MDM Hub は、関連付けられたベースオブジェクトの値を含む相互参照レコードの null 値を更新します。これにより、BVT 計算中、null 以外が指定されたフィールドで null 値は使用されません。

cmx.server.enrichcopager.thread_pool

手動で追加する必要があります。ReadCO 操作を同時に実行できるように、スレッドプールから EnrichCoPager プロパティが使用するスレッドの数を設定します。デフォルトは 30 です。スレッドの数を 1 に設定すると、プロパティは無効になります。

cmx.server.enrichcopager.min_rec_for_multithreading

手動で追加する必要があります。EnrichCoPager プロパティがマルチスレッドを使用するまでに返すレコードの最小数を設定します。デフォルトは 2 です。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Configuration Guide*』を参照してください。

グローバルプロパティ

Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

deleteMovedRelInExplorerView

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、false に設定します。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Informatica Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定 (JBoss 向け)

JBoss 環境で展開した MDM Hub で Solr を使用してスマート検索を設定する場合は、スマート検索用に Java オプションを指定して、Java 仮想マシン (JVM) を設定します。

スマート検索では次の Java オプションを設定します。

-Dmdm.ps.zk.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。ZooKeeper サーバーに指定するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dmdm.ps.search.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。検索処理が有効で、Solr サーバーとして機能するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dsearch.service.port

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。異なる JVM ではなく、同一マシンに複数のプロセスサーバーをインストールし、このマシンのすべてのプロセスサーバーでスマート検索を有効にする場合は必須です。この Java オプションは、検索サービスの JVM で使用されるポートを指定します。ポートの競合を回避するには、1 つのプロセスサーバーで JVM のデフォルトポートを使用し、この Java オプションを残りのプロセスサーバーで関連するポート番号に設定します。

JVM の設定に関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Installation Guide*』および『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Upgrade Guide*』を参照してください。

変更内容 (10.3 HotFix 1)

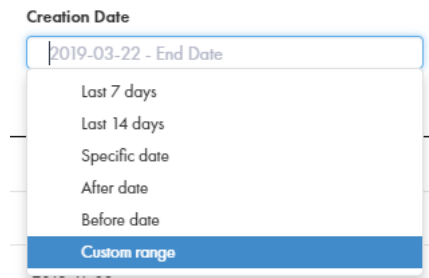
タスクインボックス

バージョン 10.3 HotFix 1 以降、作成日に基づいてタスクインボックスのタスクをフィルタリングできます。

リストから次の作成日オプションのいずれかを選択できます。

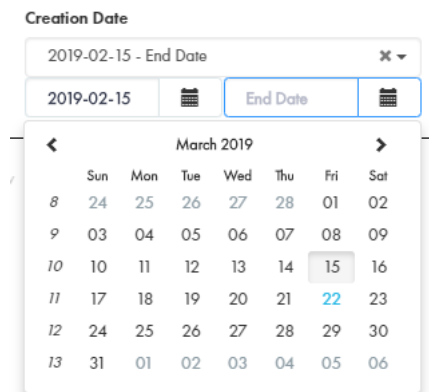
- 最近 7 日
- 最近 14 日間
- 特定の日付
- 日付以降
- 日付以前
- カスタム範囲

次の図に、【作成日】 フィルタオプションを示します。



日付範囲に基づいてタスクをフィルタリングするには、【カスタム範囲】 オプションを使用します。

次の図に、範囲の開始日を 2019 年 2 月 15 日に設定した【カスタム範囲】 フィルタオプションを示します。



これまでは、【作成日】 カラムのフィルタオプションは無効でした。

関連レコードコンポーネント

バージョン 10.3 HotFix 1 以降のプロビジョニングツールでは、関連レコード（編集モード）と関連レコード（ビューモード）の両方が単一の関連レコードコンポーネントに置き換えられます。新しい関連レコードコンポーネントでは、レコードをビューモードと編集モードのどちらで開くかを設定できます。また、リレーションの方向を引き継ぐかどうかを設定できます。

これまでは、使用するコンポーネントを選択する必要がありました。関連レコード（編集モード）コンポーネントのみが設定可能でした。関連レコード（ビューモード）コンポーネントがデフォルトでしたが、設定できないため、リレーションの方向は無視されていました。

関連レコードコンポーネントの設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

リソースキット変更

レコードキットの AssignUsersToDatabase スクリプトで、ユーザー名の大文字がサポートされるようになりました。

これまでのツールでは、小文字のみが使用されていました。

第 4 章

新機能と変更点（10.3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に, 38 ページ](#)
- [ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能, 38 ページ](#)
- [サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能, 46 ページ](#)
- [バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ, 48 ページ](#)
- [バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ, 49 ページ](#)
- [グローバルプロパティ, 50 ページ](#)
- [変更点（10.3）, 50 ページ](#)

MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に

バージョン 10.3 から、製品名が *Informatica Multidomain MDM* に変更されました。

ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能

Multidomain MDM のこのリリースでは、ビジネスエンティティを使用する Data Director 向けに次の新機能が導入されました。

ビジネスエンティティの検索とクエリ

Data Director を設定して、ユーザーがクエリまたは検索を使用して、ビジネスエンティティレコードを見つけるようにできます。また、レコードビューに手動でレコードを追加するために、クエリまたは検索の使用を設定することもできます。プロビジョニングツールを使用して Data Director を設定します。

クエリ

次のタスクを実行するためにクエリを使用できるようになりました。

- クエリを使用したレコードの検索。クエリを作成、保存、および編集できます。
- ワイルドカードを使用したレコードの検索。

- あいまい検索または完全一致検索の実行。クエリの結果で大文字と小文字を区別するかどうかを設定できます。
- クエリ値を含むレコードを検索するための、基本クエリまたは拡張クエリの設定。基本クエリでは、レコードの検索にシンプルテキスト比較を使用します。拡張クエリでは、レコードの検索に一致する論理と一致が有効な属性を使用します。
- クエリ結果に含まれる現在のカラムまたはすべてのカラムの CSV ファイルへのエクスポート。
- クエリ結果のカスタマイズによる、目的のカラムの表示。
- プロビジョニングツールを使用した、クエリ結果の表示に使用するビューの設定。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドと Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

検索

次のタスクを実行するために検索を使用できるようになりました。

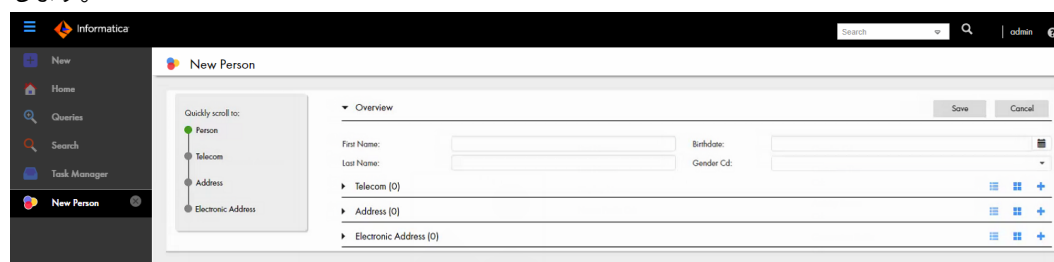
- ワイルドカードを使用したレコードの検索。
- あいまい検索または完全一致検索の実行。完全一致検索の結果では、大文字と小文字は区別されません。
- 検索結果に含まれる現在のカラムまたはすべてのカラムの CSV ファイルへのエクスポート。
- 検索結果のカスタマイズによる、目的のカラムの表示。
- プロビジョニングツールを使用した、検索結果の表示に使用するビューの設定。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドと Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

更新後の Data Director のルックアンドフィール

Data Director は、垂直タブが表示されたナビゲーションバーを使用します。**【新規】** タブを使用してレコードを追加できるようになりました。タスクインボックス、タスクマネージャ、およびレコードビューが整理されています。

次の図は、エンティティタブが表示された状態の、更新後のナビゲーションバーのルックアンドフィールを示します。

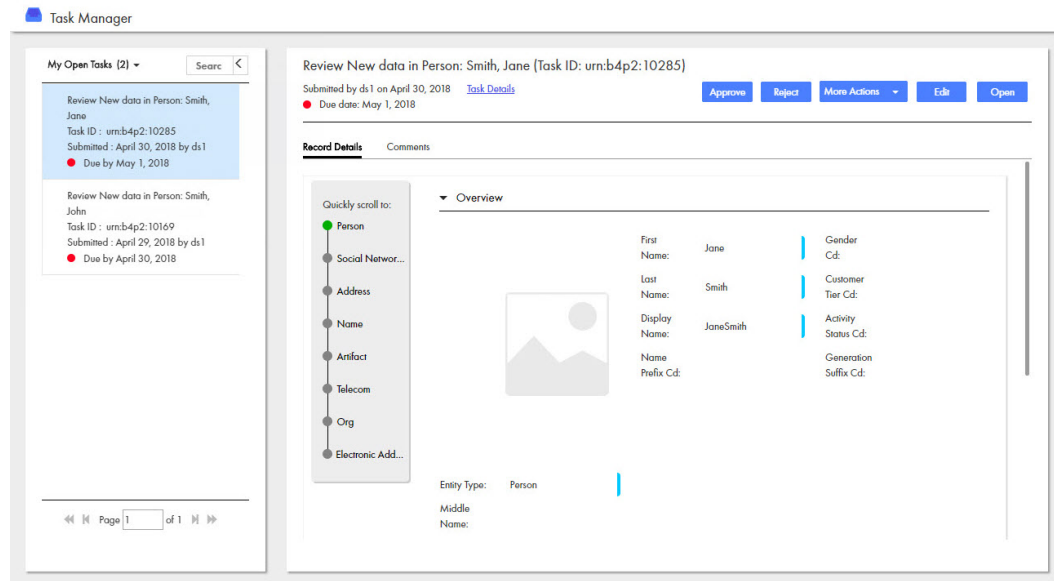


以前は、Data Director には水平タブが表示されていました。アプリケーションヘッダの**【作成】**メニューを使用していました。

タスクマネージャ

タスクパネルと確認パネルが並んで表示されるため、タスクを簡単に管理および表示できます。また、確認パネルに**【コメント】**タブが表示されます。**【コメント】**タブでは、タスクに関するすべてのコメントを表示できます。

次の図に、タスクマネージャの更新後のルックアンドフィールを示します。

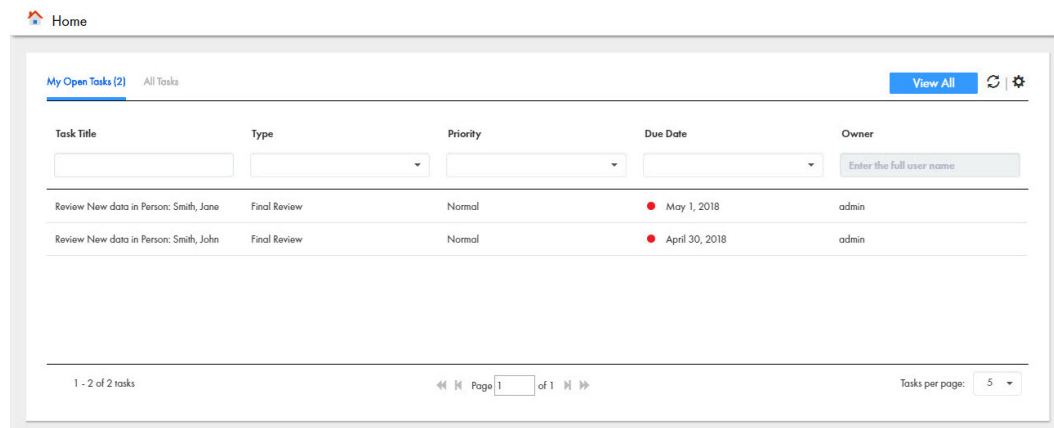


以前は、タスクパネルが確認パネルの上に表示されていました。また、[タスクの詳細] ダイアログボックスの[すべてのコメント] ボックスにコメントが表示されていました。

タスクインボックス

タスクインボックスは、作業対象のタスクをフィルタして検索できるように簡素化されています。

次の図に、更新後のタスクインボックスのルックアンドフィールを示します。



詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 Data Director ユーザーガイドを参照してください。

Data Director のローカライゼーション

ビジネスエンティティを使用する Data Director のユーザーインターフェース要素を、サポートされる任意の言語で表示できます。MDM 管理者は、メタデータ、ラベル、エラーメッセージ、およびルックアップテーブルをローカライズできます。Data Director では、次の言語がサポートされます。

- 英語 (US)
- 英語 (UK)
- ポルトガル語

- フランス語
- スペイン語
- ドイツ語
- ロシア語
- 日本語
- 中国語
- 韓国語

メタデータのローカライズ

Data Director ユーザーインターフェースのメタデータ要素をローカライズして、選択した言語を表示できます。メタデータ要素の例として、メニュー名、フィールド名、タスク、およびビジネスエンティティ名があります。

メタデータをローカライズするには、プロビジョニングツールで *besMetadata.properties* という zip ファイルをダウンロードし、表示する言語向けの *bundle.properties* ファイルを編集します。例えば、フランス語へのローカリゼーションの場合は、*bundle_fr.properties* ファイルを編集します。タスクアクションやタスクタイプをローカライズするには、*besMetadata.properties* ファイルの値を手動で編集する必要があります。この際、*taskaction.<アクション名>*の形式を使用します。

ラベルとエラーメッセージのローカライズ

Data Director のラベルとエラーメッセージをローカライズして、選択した言語を表示できます。ラベルやエラーメッセージをローカライズするには、リソースツールキットに含まれる *LocalizationSetup* スクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、MDM Hub のインストールパッケージに含まれています。

ラベルやエラーメッセージのローカライズの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ルックアップテーブルのローカライズ

すべてのルックアップテーブルでは、ローカリゼーションがサポートされます。例えば、性別、国、および状態のルックアップテーブルは、対応する性別、国、および状態のローカライズ版ルックアップテーブルにマッピングされます。

メタデータ、ラベル、エラーメッセージ、およびルックアップテーブルのローカライズの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

レコードビューのレイアウト

レコードビューのカスタムレイアウトを設計して、**【一致したレコード】** ビュー、**【階層】** ビュー、および **【履歴】** ビューを置き換えることができます。また、確認タスク、マージタスク、およびマージ解除タスクのレイアウトも置き換えられます。

カスタムビューを設計するには、プロビジョニングツールを使用します。レコードビューのレイアウトを作成して、名前、目的、およびカスタムビューへのアクセスを許可するユーザーを指定します。次に、レイアウトにコンポーネントを追加して、カスタムビューを構築します。

Data Director で、カスタムビューは **【表示】** リストに表示されます。タスクのカスタムビューは、Data Director のタスクマネージャに表示されます。

重複レコードのマージやレコード履歴の参照用のカスタムレコードビューでは、すべてのビジネスエンティティを表示するか、ビジネスエンティティに含まれるフィールドのサブセットであるビジネスエンティティビューを表示するかを選択できます。以前は、これらのレコードビューはデフォルトビューであり、すべてのビジネスエンティティが表示されていました。

ビジネスエンティティ向けに、**【一致したレコード】** の基本ビューを設定するか、**【一致したレコード】** の詳細ビューを設定するかを選択できます。**【一致したレコード】** の基本ビューでは、重複する親レコードのみをマ

ことができます。【一致したレコード】の詳細ビューでは、重複する親レコードと子レコードをマージできます。自分のアプリケーション用に、これらの【一致したレコード】ビューのいずれかまたは両方を構成することが可能です。

以前は、デフォルトのエンティティビューを置き換えるためにのみ、カスタムレコードビューのレイアウトを設計できました。

レコードビューのレイアウト設計の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

デフォルトのレコードビューの非表示

プロビジョニングツールで Data Director アプリケーションを設定して、【表示】リストにデフォルトのレコードビューが表示されないようにすることができます。

デフォルトのレコードビューは、ユーザーが Data Director のレコードを表示および管理できるようにするために、デフォルトで有効化されています。カスタムビューを設計した後は、デフォルトのレコードビューを非表示にすることを選択して、エンドユーザーの混乱を避けることができます。

以前は、Data Director でデフォルトのレコードビューを非表示にすることはできませんでした。

注: Multidomain MDM をアップグレードした場合、デフォルト状態の【表示】リストにはデフォルトのレコードビューが表示されています。

デフォルトのレコードビューの詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

類似するレコードコンポーネント

類似するレコードコンポーネントを使用して、新しいレコードを作成する時に類似するレコードを検索できます。類似するレコードコンポーネントへのレコードの表示に、検索またはクエリを使用するかどうかを決定できます。完全一致のクエリまたはあいまい一致のクエリを設定できます。

以前は、類似するレコードコンポーネントには、検索のみを設定できました。

類似するレコードコンポーネントの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

【一致するレコード】ビュー

【一致したレコード】ビューの機能が拡張されて、重複レコードの識別と解決が容易になりました。

【一致したレコード】ビューで、次の機能が拡張されました。

以下の作業を実行できるようになりました。

- 【一致したレコード】の基本ビューまたは【一致したレコード】の詳細ビューを使用した重複の解決。【一致したレコード】の基本ビューでは、重複する親レコードのみをマージできます。【一致したレコード】の詳細ビューでは、重複する親レコードと子レコードをマージできます。【一致したレコード】ビューのいずれかまたは両方を、Data Director に設定できます。
- 重複の識別に役立つ可能性のある信頼スコアなどの情報の表示と、マージ用に選択したレコードのみの表示。
- 一致したレコードの一致ルールの詳細の表示。
- 一致したレコードに追加されたブレッドクラムを使用した、マージするレコードの親の識別。
- 重複レコードが【一致したレコード】ビューに表示されない場合は、レコードをビューに手動で追加することが可能。追加するレコードを見つけるには、検索またはクエリを使用します。

- マージしないレコードや重複ではないレコードの削除。
- 自動マージのレコードのキューへの追加。
- 正しいと思われる値を昇格またはオーバーライドすることによる、最善データの完成。
- レコードのマージ前に、マージ結果のプレビューが可能。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

[相互参照レコード] ビュー

[相互参照レコード] ビューには、相互参照レコードの親レコードを識別するために役立つブレッドクラムが含まれています。ブレッドクラムトレイルに示されている最後のレコードが、**[相互参照レコード]** ビューに表示されたレコードのすぐ上の親です。

タスクマネージャ

ActiveVOS abAdmin ロールが割り当てられていると、タスクマネージャでタスクのワークフローの詳細を表示できます。また、自分のユーザーグループの別のユーザーに属するタスクの割り当てをプールに戻して、別のユーザーが引き受けられるようにすることもできます。

タスクマネージャの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

マージタスク

マージタスクの確認担当者は、確認プロセス中にマージタスクを更新できます。

確認のパネルで、確認担当者は、**[一致したレコード]** ビューで行える次のアクションを実行できます。

- マージする重複レコードの追加。
- マージしないレコードの削除。
- フィールドに正しい値を選択または入力することによる、最善データの完成。

マージタスクの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドで、確認プロセスへの参加に関する章を参照してください。

レコードへのファイルの添付

レコードを追加または編集するときに、レコードに子レコードとしてファイルを添付できます。プロビジョニングツールを使用して、データ型が FileAttachment のビジネスエンティティフィールドを設定します。このビジネスエンティティフィールドを使用して、Data Director アプリケーションでファイルを添付できます。

FileAttachment データ型の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

タスクへのファイルの添付

タスクにファイルを添付できます。添付をサポートするようにタスクが設定されている場合は、表示可能なすべてのタスクにファイルを添付できます。タスクに添付されたファイルはタスクの詳細に表示され、タスクを表示できるユーザーは添付ファイルを表示できます。

タスクへのファイル添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

タスクのコメントと添付

ユーザーがワークフローをトリガしたりタスクアクションを実行したりする際に、コメントや添付の追加を必須にするかどうかを設定できます。コメントや添付の設定を構成するには、プロビジョニングツールを使用します。

以前は、ユーザーがタスクにコメントを追加することは可能でしたが、ユーザーによるコメント追加を必須にすることはできませんでした。

ワークフローのトリガ

ユーザーにコメント、添付、またはその両方を求めるために、ワークフローのトリガを設定することができます。例えば、ユーザーがマージ解除タスクをトリガする際にコメントを追加しなければならないようにするために、マージ解除タスクのトリガを設定できます。

タスクタイプ

ユーザーにコメント、添付、またはその両方を求めるために、タスクタイプを設定することができます。また、**[タスクの詳細]** ダイアログボックスからのファイル添付をユーザーに許可できます。例えば、確認担当者がビジネスエンティティレコードに対して提示された変更を拒否する場合に、担当者にコメントと添付の追加を義務付けるように、確認タスクを設定することができます。確認担当者がタスクの詳細を編集する際にファイルを添付できるように、マージタスクを設定できます。

タスクのコメントと添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ビジネスエンティティのセキュリティ

MDM Hub のユーザーロールを適用して、ビジネスエンティティに基づいてレコードへのアクセスを管理できます。また、データフィルタを使用して、フィールドの値とユーザーロールに基づいてレコードへのアクセスを管理することもできます。フィールドに追加できる値を制限する場合は、フィールドに対してデフォルト値のリストを作成できます。

セキュリティオプションの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ユーザーロールとビジネスエンティティ

ビジネスエンティティは、ルートベースオブジェクトと子ベースオブジェクトを持つデータ構造です。MDM Hub コンソールでベースオブジェクトとその他のリソースにユーザーロール権限を割り当てると、Data Director のレコードビューに権限が継承されます。例えば、ベースオブジェクトのユーザーロールに読み取り権限を付与した場合、そのユーザーは、ビジネスエンティティレコードに同じアクセス権を持つことになります。

ユーザーロールに権限をすでに割り当てている場合は、ビジネスエンティティ上でセキュリティを有効化するために他の作業をする必要はありません。アップグレードの後、Data Director はユーザーロール権限の結果を自動的に反映します。

ユーザーロールと REST API

API が機能拡張されて、MDM Hub ユーザーロールがサポートされるようになりました。すべてのケースで、ユーザーはレコードの読み取り権限を持っている必要があります。これは、他の権限が処理される前に必要です。ユーザーロール権限はビジネスエンティティによって継承されます。そうすると、フィールドの値に基づくレコードへのアクセスを制限するために、フィールドフィルタを使用できます。

次の REST API は、オブジェクトとリレーションの<operations>要素内のユーザーロール権限を返します。

- GetMetadata

- ListMetadata

セキュリティの改善点の Data Director への影響の詳細については、[「ビジネスエンティティのセキュリティ」\(ページ 44\)](#)を参照してください。

セキュリティフィルタおよびデータフィルタの API の機能拡張の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のビジネスエンティティサービスガイドを参照してください。

ユーザーロールが割り当てられたデータフィルタ

ビジネスエンティティのフィールドにデータフィルタを作成し、そこにユーザーロールを割り当てることができます。レコード内のフィールド値に基づいて、ユーザーはレコード全体を表示できる場合とできない場合があります。また、ノードにフィルタを作成して、ノードが空の場合に親レコードへのアクセス権をユーザーが持つかどうかを決めることができます。

注: この機能は、サブジェクト領域に対するデータセキュリティフィルタに似ていますが、ビジネスエンティティ向けのデータフィルタでは大文字と小文字が区別されません。

ユーザーロールが割り当てられたタスク

ビジネスエンティティ用に作成したワークフロータスクに、ユーザーロール特権を割り当てます。ユーザーは、ロール特権を持つタスクに対してアクションを実行できます。例えば、ユーザーがマージタスクでアクションを実行できるのは、そのユーザーのロールにマージ特権が含まれる場合のみです。

ビジネスエンティティのデフォルト値

フィールドにデフォルト値を追加できます。Data Director では、フィールドに単一のデフォルト値が表示されます。デフォルト値のリストは、ドロップダウンリストとして表示されます。

セキュリティ向けのユーザーインターフェースの改善点

MDM 管理者がユーザーロール特権を作成すると、その特権は Data Director ユーザーインターフェースに影響を与えます。例えば、あるビジネスエンティティへのアクセス権を持たないユーザーは、そのビジネスエンティティまたはそこに属するレコードを表示できません。

次の表に、ビジネスエンティティのロール特権の概要と、特権が Data Director ユーザーインターフェースの動作にどのように影響するかを示します。

ビジネスエンティティのアクション	Data Director の動作
レコードの作成	【新規】 メニューでは、レコードを作成する権限のあるビジネスエンティティのタイプのみ表示できます。
レコードの読み取り	読み取り権限のあるビジネスエンティティのレコードを表示できます。他のレコードにはアクセスできません。
レコードの更新	レコードビューでは、ビジネスエンティティレコードの編集権限がある場合に、 【編集】 ボタンが有効になります。それ以外の場合、 【編集】 ボタンは表示されません。
レコードの削除	ビジネスエンティティレコードの削除権限がある場合、 【削除】 アイコンが有効になります。

ビジネスエンティティのアクション	Data Director の動作
レコードの検索	スマート検索を使用してビジネスエンティティを検索する場合、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのタイプのみ表示されます。
レコードのマージおよびマージ解除	レコードのマージおよびマージ解除権限がある場合、 【一致したレコード】 ビューの各レコードの上部にある 【マージ】 ボタンとチェックボックスが有効になります。このビューにレコードを追加すると、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのレコードのみ表示されます。

ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティと同じロール特権を継承します。例えば、ビジネスエンティティビューに重要なフィールドを含めることを選択した場合、そのレコードに対するロール特権を持つユーザーだけがそれを表示または編集できます。ユーザーロール特権がビジネスエンティティやビジネスエンティティビューにどのように変換されるかの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

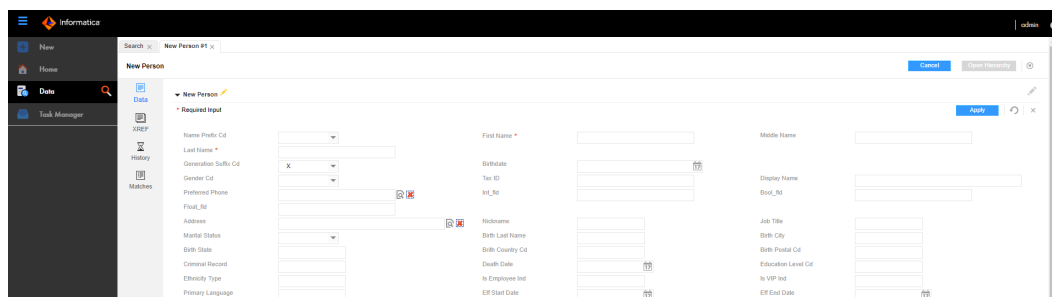
サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能

Multidomain MDM のこのリリースでは、サブジェクト領域を使用する Data Director 向けに次の新機能が導入されました。

更新後の Data Director のルックアンドフィール

Data Director は、垂直タブが表示されたナビゲーションバーを使用します。**【新規】** タブを使用してレコードを追加できるようになりました。タスクインボックスとタスクマネージャは合理化されています。

次の図は、**【データ】** タブが表示された状態の、更新後のナビゲーションバーのルックアンドフィールを示します。

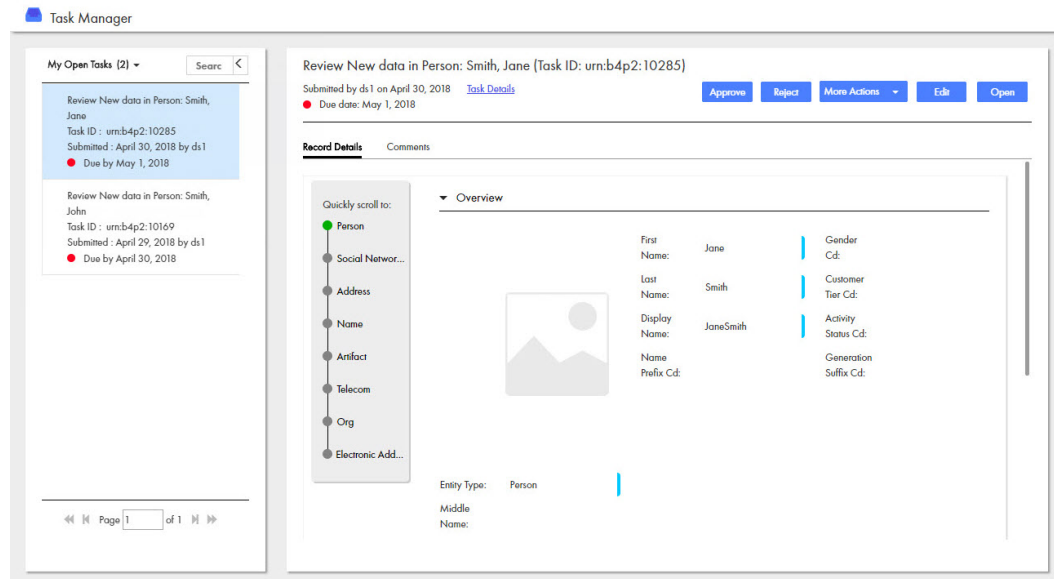


以前は、Data Director には水平タブが表示されていました。アプリケーションヘッダの**【作成】** メニューを使用していました。

タスクマネージャ

タスクパネルと確認パネルが並んで表示されるため、タスクを簡単に管理および表示できます。また、確認パネルに**【コメント】** タブが表示されます。**【コメント】** タブでは、タスクに関するすべてのコメントを表示できます。

次の図に、タスクマネージャの更新後のルックアンドフィールを示します。

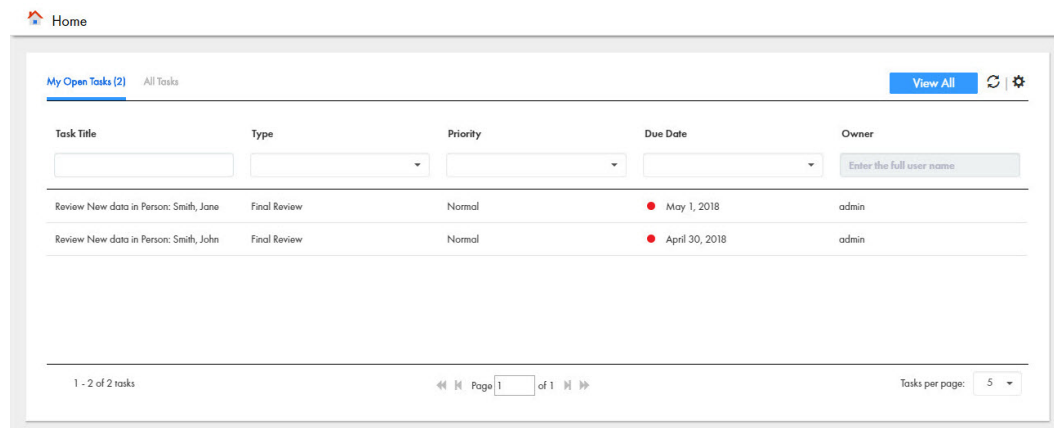


以前は、タスクパネルが確認パネルの上に表示されていました。また、**[タスクの詳細]** ダイアログボックスの**[すべてのコメント]** ボックスにコメントが表示されていました。

タスクインボックス

タスクインボックスは、作業対象のタスクをフィルタして検索できるように簡素化されています。

次の図に、更新後のタスクインボックスのルックアンドフィールを示します。



詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 Data Director ユーザーガイドを参照してください。

タスクへのファイルの添付

タスクにファイルを添付できます。添付をサポートするようにタスクが設定されている場合は、表示可能なすべてのタスクにファイルを添付できます。タスクに添付されたファイルはタスクの詳細に表示され、タスクを表示できるユーザーは添付ファイルを表示できます。

タスクへのファイル添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

cmx.server.selective.bvt.enabled

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

cmx.file.allowed_file_extensions

Data Director アプリケーションでレコードやタスクに添付することのできるファイルの拡張子を一覧表示します。デフォルトでは、.pdf ファイルおよび.jpg ファイルを添付できます。拡張子を複数指定する場合は、各値をカンマで区切ります。

例: cmx.file.allowed_file_extensions=pdf,jpg,png,txt,zip,exe.

cmx.file.max_file_size_mb

Data Director アプリケーションで添付できるファイルのサイズ制限を指定します。

注: サブジェクト領域データモデルを使用する Data Director アプリケーションには 20 MB の静的サイズ制限があります。20 MB より大きいサイズ制限を指定しても、サブジェクト領域データモデルを使用する Data Director アプリケーションでは 20 MB の静的サイズ制限が維持されます。ビジネスエンティティデータモデルを使用する Data Director アプリケーションでは、cmx.file.max_file_size_mb プロパティで定義されているサイズ制限に維持されます。

cmx.server.attachment.temp.ttl_minutes

ファイルが TEMP ストレージに作成されてから期限が切れるまでの時間（分）。ファイルの期限が切れないようにするには 0 に設定します。デフォルトは 60 です。

cmx.ss.engine

Elasticsearch エンジンを検索に使用する場合は必須です。このプロパティは手動で追加して es に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスターノードの数に設定します。

ex.max.threads

Apache Elasticsearch クラスターでノードごとに非同期ノンブロッキングレシーバを使用するスレッドの最大数を設定します。デフォルトは 1 です。

この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

es.index.refresh.interval

「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブが実行された後に Elasticsearch がデータへの変更をコミットする間隔（秒）を設定します。そのデータを検索できるようになるのは、この時間間隔の後です。デフォルトは 30 です。

このプロパティは、初回のインデックス処理でインデックス処理量が大きくなった場合に影響します。この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

ssl.keyStore

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。キーストアファイルの絶対パスおよびファイル名。

ssl.keyStore.password

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。キーストアファイルのプレーンテキストパスワード。

ssl.trustStore

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。トラストストアファイルの絶対パスおよびファイル名。

ssl.trustStore.password

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。トラストストアファイルのプレーンテキストパスワード。

Hub サーバーのプロパティ設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の設定ガイドを参照してください。

バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ

次のプロセスサーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

Elasticsearch を使用した検索に関連するプロセスサーバーのプロパティは、cmxcleanse.properties ファイルで設定できます。

cmx.ss.engine

Elasticsearch エンジンを検索に使用する場合は必須です。このプロパティは手動で追加して es に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスターノードの数に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスターノードの数に設定します。

es.index.refresh.interval

「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブが実行された後に Elasticsearch がデータへの変更をコミットする間隔（秒）を設定します。そのデータを検索できるようになるのは、この時間間隔の後です。デフォルトは 30 です。

このプロパティは、初回のインデックス処理でインデックス処理量が大きくなった場合に影響します。この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

プロセスサーバーのプロパティ設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の設定ガイドを参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して、Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御できます。

minModalWidth

【検索】 ウィンドウの最小幅をピクセル単位で決定します。デフォルトは 1100 です。

変更点（10.3）

用語の変更

このバージョンでは、次の用語が変更されました。

新しい用語	説明	以前の用語	場所
ホームページ	タスクインボックスやその他のコンポーネントが含まれる、カスタマイズ可能なダッシュボード。	スタートページ	Data Director
レコード	ビジネスエンティティのインスタンス。例えば、「John Smith」はレコードですが、「個人」はビジネスエンティティです。	ビジネスエンティティ	Data Director
レコードビュー	Data Director の 1 つ以上のレコードの任意のビュー。	エンティティビュー	Data Director、プロビジョニングツール
レコードビューのレイアウト	Data Director でレコードやタスクを表示および管理するために設計できる、Data Director ユーザーインターフェースのレイアウト。	エンティティビューのレイアウト	プロビジョニングツール
検索	Data Director のキーワード検索機能。レコードを検索するには、検索ボックスにキーワードを入力します。	スマート検索	Data Director、プロビジョニングツール
【新規】 タブ	レコードの作成に使用できる、ナビゲーションバーのタブ。	【作成】 メニューまたは【データビューで作成】メニュー	Data Director

Apache Solr を使用した検索の廃止

バージョン 10.3 から、Apache Solr を使用した Data Director の検索機能は廃止されます。今後のリリースでは、Solr を使用した検索がサポートされなくなります。Data Director でレコードを見つけるために、Elasticsearch を使用した検索を使用できます。Elasticsearch はオープンソースの、フルテキスト検索エンジンです。

MDM Hub インストーラと一緒にパッケージに含まれている、Elasticsearch を使用した検索を設定する必要があります。Elasticsearch を単一ノードクラスタまたはマルチノードクラスタとして設定して、分散インデックス処理と検索を提供できます。スムーズな移行を成功させるために、Apache Solr を使用した検索でサポートされていた API が Elasticsearch を使用した検索でもサポートされます。

タスクインボックス

バージョン 10.3 から、タスクインボックスに表示するカラムとフィルタを設定できるようになりました。プロビジョニングツールを使用して、タスクインボックス用のカラムとフィルタを設定します。

タスクインボックスには、次のフィルタが含まれます。

- 開いているタスク
- 終了したタスク
- すべてのタスク
- すべての引き受け解除したタスク
- すべての終了したタスク
- すべての引き受け処理したタスク

以前は、タスクインボックス用にカラムやフィルタを設定できず、タスクインボックスのフィルタには、マイタスクと使用可能なタスクのみが含まれていました。

タスクインボックスの設定の詳細については、Multidomain MDM 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

タスクマネージャ

バージョン 10.3 から、タスクマネージャのタスクパネルに表示するフィールドを設定できるようになりました。プロビジョニングツールを使用して、タスクパネル向けのフィールドを設定します。

タスクパネルには、次のフィルタが含まれます。

- 開いているタスク
- 終了したタスク
- すべてのタスク
- すべての引き受け解除したタスク
- すべての終了したタスク
- すべての引き受け処理したタスク

以前は、タスクパネルのフィルタには、マイタスクと使用可能なタスクのみが含まれていました。

タスクマネージャの設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

リソースキット

バージョン 10.3 から、次の項目が Resource Kit ディレクトリと *Multidomain MDM* のリソースキットガイドから削除されました。

- WsCodeGenPlugin サンプル
- Jaspersoft テンプレート

パート III: バージョン 10.2

この部には、以下の章があります。

- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 4\) , 53 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 3\) , 54 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 2\) , 56 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 1\) , 60 ページ](#)
- [新機能と変更点 \(10.2\) , 66 ページ](#)

第 5 章

新機能と変更（10.2 HotFix 4）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HotFix 4）, 53 ページ](#)
- [変更内容（10.2 HF4）, 53 ページ](#)

新機能（10.2 HotFix 4）

ここでは、バージョン 10.2 HotFix 4 の新しい機能について説明します。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5

Informatica Multidomain MDM バージョン 10.2 HotFix 4 では、Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 がサポートされています。

以前のバージョンの Multidomain MDM からアップグレードした場合は、ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 がインストールされていることを確認してください。

変更内容（10.2 HF4）

MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に

バージョン 10.2 HotFix 4 および 10.3 から、製品名が *Informatica Multidomain MDM* に変更されました。

第 6 章

新機能と変更（10.2 HotFix 3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HotFix 3）, 54 ページ](#)
- [変更内容（10.2 HotFix 3）, 55 ページ](#)

新機能（10.2 HotFix 3）

スマート検索用 Java 仮想マシンの設定

MDM Hub でスマート検索を設定する場合は、スマート検索用に Java オプションを指定して、Java 仮想マシン（JVM）を設定します。

スマート検索では次の Java オプションを設定します。

-Dmdm.ps.zk.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。ZooKeeper サーバーに指定するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dmdm.ps.search.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。検索処理が有効で、Solr サーバーとして機能するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dsearch.service.port

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。異なる JVM ではなく、同一マシンに複数のプロセスサーバーをインストールし、このマシンのすべてのプロセスサーバーでスマート検索を有効にする場合は必須です。この Java オプションは、検索サービスの JVM で使用されるポートを指定します。ポートの競合を回避するには、1 つのプロセスサーバーで JVM のデフォルトポートを使用し、この Java オプションを残りのプロセスサーバーで関連するポート番号に設定します。

REST API 改良点

REST API を使用して子レコードを作成または更新する場合、同一の POST 要求に子レコードを追加できます。これまでは、2 つの要求を作成する必要がありました。

REST API を使用して子レコードを追加する場合、特定の親レコードを参照することができます。これまでは、要求内の親レコードを指定できませんでした。

メッセージトリガの拡張

相互参照レコードがリストアされると、MDM Hub は JMS メッセージキューに格納されたメッセージをトリガできます。相互参照レコードをリストアするイベントのメッセージトリガを設定するには、スキーママネージャを使用します。**[メッセージトリガ]** ページの **[イベント]** セクションで、**[リストア]** を選択します。これは、このセクションに含まれる新しいイベントです。

詳細については、『*MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

変更内容（10.2 HotFix 3）

リソースキット変更

レコードキットの AssignUsersToDatabase スクリプトで、ユーザー名の大文字がサポートされるようになりました。

これまでのツールでは、小文字のみが使用されていました。

第 7 章

新機能と変更（10.2 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HotFix 2）](#) , 56 ページ
- [変更内容（10.2 HotFix 2）](#) , 59 ページ

新機能（10.2 HotFix 2）

Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 のサポート

Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Oracle WebLogic T3S プロトコルのサポート

WebLogic と MDM Multidomain Edition 間の通信には、Oracle WebLogic T3S プロトコルを使用できます。

WebLogic T3S の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HotFix 2 Security Guide*』を参照してください。

プロセスサーバーのプロパティ

次の Process サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxcleanse.properties ファイルの Process サーバープロパティを設定します。

cmx.server.stripDML.useDeleteInsertLock

ベースオブジェクトに多数のレコードがある場合に、一致ジョブまたはトークン化 API 呼び出しの一部としてトークン化を実行します。

cmx.server.load.nonsmos.sourcesystem.enddate.like.smos

状態管理オーバーライドシステム（SMOS）ではないシステムのリレーション終了日を SMOS と同じ日に設定します。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

cmx.server.selective.bvt.enabled

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

com.informatica.mdm.message.queue.max.bytes.threshold

メッセージキューに送信されるメッセージの上限を作成できます。メッセージキューに送信されるメッセージの最大サイズをバイト単位で指定するには、このプロパティを設定します。メッセージが指定されたサイズを超えた場合、メッセージは送信されず、メッセージのステータスは [失敗] に設定されます。

cmx.server.load.nonsmos.sourcesystem.enddate.like.smos

状態管理オーバーライドシステム (SMOS) ではないシステムのリレーション終了日を SMOS と同じ日に設定します。

cmx.server.override_orstitle

Informatica Data Director (IDD) にログインすると、現在のユーザーのタスクがあるすべてのサブジェクト領域の長いタイトルがダッシュボードに表示されます。IDD にログインするときに優先するデフォルトのタイトルを表示するには、cmxserver.properties ファイルで cmx.server.override_orstitle プロパティを優先するタイトルに設定します。

例えば、プロパティを [すべてのサブジェクト領域] に設定した場合、画面上のタイトルは **【すべてのサブジェクト領域のタスク】** として表示されます。

cmx.server.task.grouppotentialmergebyruleid

複数の一致が生成される手動一致タスクで同じ ROWID を持つ複数のタスクエントリを作成するかどうかを指定します。プロパティを false に設定すると、一致エントリごとに 1 つのタスクを作成できます。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化

Java 仮想マシン (JVM) をグループ化することにより、Hub サーバーとプロセスサーバーの論理グループを作成できます。Hub サーバーとプロセスサーバーのアプリケーションを JVM グループにデプロイすると、アプリケーション間の通信はすべてグループ内にとどまります。JVM をグループ化するには、MDM Hub 環境の各 JVM にグループ ID を割り当てます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HotFix 2 Installation Guide*』を参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

deleteMovedRelInExplorerView

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、false に設定します。

enableSaveForPeriodDialogForHmRel

IDD で階層マネージャが有効なレコードを更新するときに表示される有効期間のダイアログボックスを有効にします。有効期間のダイアログボックスを無効にするには、false に設定します。

enableTaskAttachments

従来のビューと Informatica BPM (ActiveVOS) サブジェクト領域ワークフローを Data Director で使用する場合に、ユーザーがタスクにファイルを添付できるかどうかを指定します。true に設定すると、添付ファイルが有効になり、**【タスクの詳細】** ダイアログボックスおよび **【タスクの作成】** ダイアログボックスの **【ファイル添付】** セクションが表示されます。

hideSystemColumnsInResult

検索結果にシステムカラムを表示するかどうかを指定します。IDD 検索結果でシステムカラムを非表示にするには、true に設定します。

overrideTextAreaColumnOrder

カラムをサブジェクト領域のテキスト領域として設定すると、テキスト領域カラムはカラムの順序に関係なく常にレイアウトの下部に表示されます。

レイアウト内でテキスト領域のカラムが指定された順序で表示されるようにするには、false に設定します。サブジェクト領域のテキスト領域のカラムがカラムの順序に関係なくレイアウトの下部に表示されるようにするには、true に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、getChangedChildren メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、ユーザーイグジットが削除した子レコードと更新した子レコードを組み合わせる返すことができます。

日付形式の機能拡張

エンティティ 360 フレームワークでは、カレンダーで使用するデフォルトの日付形式を変更できます。

デフォルトの日付形式を変更するには、テキストエディタを使用して、プロパティ DATE_TIME_LONG_FORMAT を含む bundleE360.properties ファイルを作成します。次に、bundleE360.properties ファイルを以下の場所に追加します。

```
<distribution directory>\hub\server\resources\entityE360
```

注: 存在しない場合は、entityE360 ディレクトリを作成します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

【開始】 ワークスペースの拡張

タスクの優先順位を付けるために、**【開始】** ワークスペースには、タスクが作成された日付を表示する **【作成日】** カラムがあります。**【開始】** ワークスペースには、タスクの現在の所有者を表示する **【所有者】** カラムもあります。

設定自動化ツールの機能拡張

MDM Hub マスタデータベース内の 1 人のユーザーを削除し、LDAP サーバー内の 1 人のユーザーを MDM Hub ロールと同期させることができます。

次のプロパティを使用して、ユーザー管理を自動化できます。

プロパティ	説明
MDM.new.user.email<n>	作成するユーザーの電子メールアドレス。
LDAP.attribute_name.for.user.email	ユーザーの電子メールアドレスを LDAP サーバーからオペレーショナルリファレンスストアに同期します。
LDAP.attribute_name.for.username	共通名またはユーザー ID 以外の属性を LDAP サーバーからオペレーショナルリファレンスストアに同期します。
LDAP.strip_slashes_from_usernames	Boyd\などのユーザー名からスラッシュを削除して、同期プロセスを動作させます。
LDAP.cleanup.before.sync	ユーザーをロールと同期する前に、オペレーショナルリファレンスストアに割り当てられているユーザーを削除します。

変更内容（10.2 HotFix 2）

ユーザーイグジットの機能拡張

バージョン 10.2 HotFix 2 では、階層マネージャのユーザーイグジットで有効期間を設定できます。

以前は、保存ハンドラのユーザーイグジットでのみ有効期間を設定できました。

Hub 状態インジケータが PUT 可能でない

バージョン 10.1 HF2 では、システムカラム HUB_STATE_IND を PUT 可能として設定することはできません。この変更は、そのリリースで発表されませんでした。

『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HF2 Configuration Guide*』では、プロパティ Putable の例外の一覧が HUB_STATE_IND を含むように更新されています。

第 8 章

新機能と変更（10.2 HotFix 1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HotFix 1）, 60 ページ](#)
- [変更（10.2 HotFix 1）, 64 ページ](#)

新機能（10.2 HotFix 1）

履歴ビューの改良点

次のレコードフィールドの追加により、履歴ビューのユーザビリティが向上しました。

最終更新日

レコードが最後に更新された日付が表示されます。

更新者

レコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

また、履歴ビューの変更の詳細には、変更を行ったユーザーの姓と名が含まれます。

以前は、Hub コンソールで設定されたユーザー名のみが変更の詳細に表示されていました。変更の詳細にわかりやすい名前を表示するには、Hub コンソールを起動し、ユーザー定義を更新して姓と名を含めます。

ユーザーの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティへのアクセスの制限

プロビジョニングツールでは、Entity 360 フレームワーク内のすべてのユーザーに対して表示されないビジネスエンティティを含むように、IDD アプリケーションを設定できます。セキュリティ上の理由から特定のビジネスエンティティを非表示にする場合は、IDD アプリケーションでビジネスエンティティを設定するときに、**[表示可能]** チェックボックスをオフにします。

以前は、IDD アプリケーションのすべてのビジネスエンティティが Entity 360 フレームワーク内のすべてのユーザーに表示されていました。

IDD アプリケーションの設定に関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

外部キーカラムへのデータの取り込み

ビジネスエンティティの外部キーカラムでは、関連するビジネスエンティティの一覧から関連するビジネスエンティティを参照および選択できます。選択したビジネスエンティティは検索可能である必要があります。

以前は、外部キーカラムにビジネスエンティティの ROWID を手動で入力する必要がありました。

また、ビジネスエンティティスキーマを生成すると、プロビジョニングツールによって、ビジネスエンティティルックアップフィールドが生成されます。

ルックアップに関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

SearchQuery 要求のパフォーマンス最適化

SearchQuery 要求は、保留中のデータ変更を含む結果を基本オブジェクトに返すことができます。

以前は、基本オブジェクトに保留中の変更が含まれている場合に、クエリ結果がタイムアウトしました。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 サービス統合フレームワークガイド*』を参照してください。

バッチグループのジョブ履歴

Hub コンソールの [バッチグループ] ツールでは、バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定できます。デフォルトでは、バッチジョブのログはすべての履歴を考慮しますが、考慮する日数を減らすことができます。

バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定するには、cmxserver.properties ファイルに cmx.server.jobControl.noOfDays プロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

メッセージキューのポーリングの無効化

マルチノード環境では、個々のノードに対してメッセージキューのポーリングを無効にできます。メッセージキューのポーリングを無効にするには、cmxserver.properties ファイルと cmxcleanse.properties ファイル内で、mq.data.change.monitor.thread.start プロパティを false に設定します。

DEBUG モードでは、メッセージキューのポーリングの操作を確認できます。

- mq.data.change.monitor.thread.start の値が false であるノードでは、メッセージ **Monitoring is disabled** がログに表示されます。
- mq.data.change.monitor.thread.start の値が true であるノードでは、メッセージ **Data changes monitoring started** がログに表示されます。

デフォルトでは、メッセージキューのポーリングは、MDM Hub EAR ファイルがデプロイされているすべての Java 仮想マシン上で有効になっています。データ変更の監視とメッセージのパブリッシュに複数のポーラースレッドを使用していると、メッセージが正しい順序でパブリッシュされない場合があります。メッセージのパブリッシュ順序を制御するには、単一のポーラースレッドを使用します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

`bulkexportloadsize`

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするときの、各スレッドのロードの最大レコード数を設定します。

`exportusingmultithread`

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするためのマルチスレッドを有効にします。

`CompositePagerTotalRecords`

Informatica Data Director がソートする ActiveVOS タスクの最大数。デフォルトでは、Informatica Data Director は、大文字小文字を区別しない ActiveVOS タスクをソートします。ソート対象が `CompositePagerTotalRecords` の値よりも多い場合、大文字小文字を区別するソートはデータベース依存です。データベースが Microsoft SQL Server である場合、ソートは大文字小文字を区別しません。データベースが Oracle または IBM DB2 の場合、ソートは大文字小文字を区別します。

`convert2DigitYearTo4Digit`

2 桁の年のエントリを 4 桁の年のエントリに調整できるようにします。

`enableCreateBEMenuGrouping`

ビジネスエンティティの【作成】メニューのサブジェクト領域に基づいて論理グループを定義できるかどうかを指定します。このプロパティは、多数のサブジェクト領域がある場合に必要です。

`expandDropDownListShowFullValue`

ルックアップレコードの【検索】タブでドロップダウンリストを展開できるようにします。

`qrytaskidfromprocessidtotalretry`

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行する回数。

`qrytaskidfromprocessidwaitintrvlmillis`

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行するまでに待機するミリ秒数。

`proactiveMatchResultSort`

一致候補が Informatica Data Director アプリケーションに表示されるソート順を設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

MDM サポートツール

MDM サポートツールは、Hub コンソールのツールのコレクションです。このツールを使用して、設定情報の収集、ユーザー設定の追跡、問題のレプリケート、システムのヘルスチェックの実行、および一致のシミュレートを行います。

MDM サポートツールには、次のツールが含まれています。

Configuration Support Manager (CSM) ツール

Configuration Support Manager (CSM) ツールを使用すると、CSM レポートを生成できます。レポートは、Hub サーバー、プロセスサーバー、およびデータベースサーバーから設定情報を収集し、問題のトラブルシューティングに役立ちます。

ユーザー移行ツール

ユーザー移行ツールを使用すると、複数の MDM Hub ユーザーアカウントを作成または更新できます。また、ユーザーアカウントとユーザーのロールへの割り当てを、MDM Hub 環境間で移行することもできます。

照合分析ツール

照合分析ツールは、MDM Hub のトークン化に関連する問題を評価します。このツールは、MDM Hub 環境のヘルスチェックも提供します。

照合シミュレーターツール

照合シミュレーターツールは、MDM Hub の一致不足および一致過多シナリオをテストします。このツールを使用すると、照合問題のトラブルシューティングに関係する手作業が軽減されます。

MDM Support ツールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 リソースキットガイド*』を参照してください。

バッチマージ解除ジョブのパフォーマンスの最適化

マージ解除バッチジョブ時に、MDM Hub は子の外部キーレコードの BVT 計算を制限することによって、バッチジョブのパフォーマンスを最適化します。

以前は、大量の相互参照レコードと複数の子レコードを持つ基本オブジェクトのマージ解除バッチジョブにより、メモリ不足エラーメッセージが出されて失敗することがありました。

検索結果から 1 つのレコードをエクスポートするオプション

Informatica Data Director の検索結果ページから 1 つのレコードのみをエクスポートできるようにロールの特権を設定できます。

低レベルのユーザーが一度に 1 つのレコードのみをエクスポートするように制限すると、データセット全体が不注意でエクスポートされるのを防ぐことができます。1 つのレコードのエクスポートに特権を制限するには、Hub コンソールの [セキュリティアクセスマネージャ] の [ロール] ツールを使用します。選択したロールに対して特権 EXPORT_PROFILE/ExecuteSingleRow を有効にします。

以前は、選択した行とすべての行のいずれかのエクスポートを許可するようにロールの特権を設定できました。

ロールとユーザーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティサービスの改良点

次のビジネスエンティティサービスが追加され、保留中のマージタスクの管理に役立てることができます。

PendingMerge

BPM ワークフローで保留中のマージタスクを作成します。保留中のマージタスクから_MTCH レコードを追加または削除します。保留中のマージタスクを更新するために使用します。

PromoteMerge

BPM ワークフローのタスクデータに基づいて、保留中のマージタスクを昇格させます。特定のインタラクション ID のすべての保留中のマージタスクを検索するために使用します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

レガシー XML JMS メッセージのメッセージ ID

レガシー XML 形式の JMS メッセージには、MESSAGE_ID 属性が含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Informatica AddressDoctor バージョン 5.10

Informatica MDM Multidomain Edition は Informatica AddressDoctor バージョン 5.10 をサポートしています。

インターネットプロトコルバージョン 6

Informatica MDM Multidomain Edition はインターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6) をサポートしています。

変更 (10.2 HotFix 1)

プロキシロール

バージョン 10.2 HotFix 1 から、作成するオペレーショナルリファレンスストアには、プロキシロールが含まれます。

以前は、プロキシロールは廃止されていました。要求に応じて、プロキシロールは使用が再開されました。

リソースキットから削除された Jaspersoft

バージョン 10.2 HotFix 1 から、Jaspersoft は、MDM Multidomain Edition リソースキットには含まれていません。

ダッシュボードを Informatica Data Director に統合することを希望するお客様は、企業の最適なビジネスインテリジェンスツールを使用するか、Highcharts や他のチャートツールを使用することをお勧めします。iFrame に埋め込むことができるレポートであれば、Informatica Data Director のスタートページまたはエンティティ 360 ページに埋め込むことができます。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 10.2 HotFix 1 では、ベストバージョンオプトルースを計算するすべてのプロセスが同じ方法で NULL 値を処理します。以前は、プロセスによっては、ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]**

プロパティを無視して、ベースオブジェクトテーブルの【NULL 値を適用する】プロパティを使用するものがありました。

ソースシステムがカラムに NULL 値を提供すると、プロセスは、ステージングテーブルにあるそのカラムの【NULL の更新を許可する】プロパティの設定を参照します。

- カラムで【NULL の更新を許可する】プロパティが有効の場合、プロセスは、ベースオブジェクトレコードに NULL 値を書き込むことができます。
- カラムで【NULL の更新を許可する】プロパティが無効の場合、プロセスは、NULL 値の信頼をダウングレードします。
- ステージングテーブルの【NULL の更新を許可する】プロパティの設定を解決できない場合、プロセスは、ベースオブジェクトテーブルの【NULL 値を適用する】プロパティの設定を使用します。

【NULL の更新を許可する】プロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト

バージョン 10.2 HotFix 1 から、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトは、タスクインボックスのフィルタリングに関する問題を解決するために変更されました。

以前は、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトによって、タスクインボックスのフィルタリングに問題が発生しました。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、アップグレード後に BeMDMWorkflow プロジェクトを再デプロイします。ワークフローをカスタマイズした場合は、ActiveVOS Designer を使用して、cs.wsdl ファイルの TaskFilter 複合型内に次のコードを追加します。

```
<xsd:element minOccurs="0" name="overdueOnly" type="xsd:boolean" />
```

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.2 HotFix 1 アップグレードガイド*』を参照してください。

プロセスサーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.2 HotFix 1 では、プロセスサーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.2 HotFix 1 の動作の変更点
com.informatica.mdm.overrideNullable	ソースシステムが NULL 値を提供した場合、最も信頼できる値をプロセスが計算する方法を上書きできません。NULL 値を処理する際にプロセスが使用する方法が変更されました。詳細については、 「【NULL の更新を許可する】プロパティ」 (ページ 64) を参照してください。
com.informatica.mdm.promoteNullable	カラムに NULL 値を提供するソースシステムが複数のステージングテーブルを持っている場合、プロセスは、すべてのステージングテーブルの【NULL の更新を許可する】プロパティを無視します。代わりにプロセスは、ベースオブジェクトレコードの【NULL 値を適用する】プロパティの設定を使用します。

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

第 9 章

新機能と変更点（10.2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2）, 66 ページ](#)
- [変更点（10.2）, 73 ページ](#)

新機能（10.2）

Informatica Data Director の Hub サーバーのプロパティ

cmxserver.properties ファイルに次のプロパティを追加して、Informatica Data Director を設定できます。

cmx.e360.match_xref.view.enabled

エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューと [相互参照] ビューを表示するかどうかを決定します。true の場合は、エンティティ 360 フレームワークのビューが表示されます。false の場合は、従来のビューが表示されます。インストール時のデフォルトは、true です。既存のソフトウェアのアップグレード時のデフォルトは、false です。

注: エンティティ 360 フレームワークの [相互参照] ビューでは、ツリーマージ解除がサポートされます。線形マージ解除のサポートが必要な場合は、引き続き従来の [相互参照] ビューを使用してください。

パスワードのハッシュ化

MDM Hub は、パスワードのハッシュ化方式を使用して、ユーザーのパスワードを保護します。MDM Hub マスタデータベースには、ユーザーのパスワードがハッシュ化された形式で保存されています。MDM Hub へのログイン時、ユーザーの要求は暗号化されますが、これには、パブリックキーとプライベートキーのペアが利用されます。ユーザーを認証する際、MDM Hub は、ユーザーの要求を復号化し、その値とマスタデータベースから取得したハッシュ値とを比較します。

ハッシュアルゴリズムでは、パスワード文字列とランダムに生成された複数の値が連結されます。パスワードのハッシュ化に使用されるデフォルトのアルゴリズムは、SHA3 です。ただし、カスタムハッシュアルゴリズムを設定することもできます。ハッシュ実装クラスは、MDM Hub のインストール時に設定します。cmxserver.properties ファイルの Hub サーバーのプロパティを通じて設定することもできます。

MDM Hub では、パスワードのハッシュ化が Blowfish 暗号化に代わって使用されています。

パスワードのハッシュ化の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 セキュリティガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 設定ガイド*』を参照してください。

セキュリティ設定ユーティリティ

セキュリティ設定ユーティリティでは、MDM Hub 実装のセキュリティ設定のいくつかを管理できます。このユーティリティを使用すると、MDM Hub ユーザーのパスワードをリセットしたり、MDM Hub で使用されるハッシュアルゴリズムを変更したり、証明書プロバイダを変更したりできます。また、ハッシュアルゴリズムの作成に使用されるお客様のハッシュキーを更新することもできます。

セキュリティ設定ユーティリティを入手するには、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

プロビジョニングツールでの機能拡張

プロビジョニングツールのユーザーインターフェースが改良され、より使いやすくなりました。このユーザーインターフェースには、複雑な XML 設定に代わって、シンプルなユーザー入力フィールドが組み込まれています。

プロビジョニングツールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

レイアウトデザイナー

プロビジョニングツールのレイアウトデザイナーを使用すると、Informatica Data Director のスタートページとエンティティビューのレイアウトを設計できます。レイアウトを設計するには、レイアウトデザイナーでレイアウトテンプレートを選択し、レイアウトに必要なコンポーネントをドラッグして編成します。

レイアウトデザイナーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

DaaS プロバイダコンポーネント

DaaS プロバイダコンポーネントは、ビジネスエンティティに関する情報を外部データサービスで検索する場合に使用します。サービスプロバイダとしてのサードパーティデータとの既存のリレーションが必要です。

Data as a Service プロバイダとの統合

サードパーティデータプロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティデータを充実および拡張できます。MDM Hub と Data as a Service (DaaS) プロバイダを統合し、信頼性があり、正確かつ完全なデータにアクセスできます。

DaaS プロバイダとの統合を設定するには、プロビジョニングツールを使用します。DaaS プロバイダからのデータを入力する、ビジネスエンティティフィールドを指定できます。

Informatica Data Director で、DaaS プロバイダコンポーネントを使用して、DaaS プロバイダにデータを要求します。レコードを検索し、結果を比較し、ビジネスエンティティレコードに変換してマージするエンティティを選択できます。

DaaS プロバイダとの統合を設定する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

多対多のリレーション

ビジネスエンティティ間で多対多のリレーションを設定するには、プロビジョニングツールを使用します。ビジネスエンティティリレーションに関連付けられた属性をさらに追加することが可能です。

ビジネスエンティティのリレーションを追加、編集、および削除するには、Informatica Data Director の関連レコードコンポーネントを使用します。

多対多のリレーションの設定方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウト

ビジネスエンティティデータに対してカスタムロジック、検証、およびトランスフォーメーションを実行するように、ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウトを設定できます。ビジネスエンティティサービスの特定のステップ用のコールアウトを設定できます。

外部コールアウトの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

[相互参照レコード] ビュー

[相互参照レコード] ビューは、ビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールズを確立する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

データスチュワードは、[相互参照レコード] ビューを使用して、すべての子エンティティを含む、ビジネスエンティティ全体のリネージュを検査できます。また、子レコードのマージ解除もできるようになりました。これにより、データスチュワードは、マスタレコードが確実にベストバージョンオブトゥールズを表すように調整を行うことができます。

MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 をインストールした場合、このビューは、デフォルトで有効になります。以前のバージョンからアップグレードした場合、このビューを有効にするには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` プロパティ（`cmxserver.properties` ファイル内）を `true` に設定します。このビューでは、ツリーマージ解除がサポートされています。線形マージ解除のサポートが必要な場合は、引き続き [IDD XREF] ビューを使用してください。インストール時のこのプロパティのデフォルト設定は、`true` です。既存のソフトウェアのアップグレード時のデフォルト設定は、`false` です。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド』を参照してください。

履歴ビュー

[履歴] ビューは、データに対する変更を時系列順に確認する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

[履歴] ビューには、ビジネスエンティティの存続期間にわたってデータがどのように変化したかが時系列で表示されます。ビジネスエンティティ内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、ビジネスエンティティのデータを変更する何らかのアクションです。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド』を参照してください。

【一致するレコード】ビュー

【一致するレコード】ビューは、レコードの重複を識別して、解決する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

デフォルトでは、【一致するレコード】ビューには、ターゲットビジネスエンティティのほかに、一致ルールを満たしたビジネスエンティティが含まれます。一致ルールを満たさなかったビジネスエンティティを検索して、ビューに追加することもできます。

類似するビジネスエンティティのルートレコードを比較し、重複していると思われるものを選択します。次に、ビジネスエンティティの子レコードと子孫レコードを比較します。いずれかのレベルで兄弟レコードの重複が見つかった場合は、そのレコードを選択して、マージプロセスに含めることができます。マージプロセスを開始する前に、マージされるビジネスエンティティをプレビューできます。

注: 値を上書きする必要がある場合は、【相互参照レコード】ビューでビジネスエンティティを編集してください。【一致するレコード】ビューでは、上書きを行うことができません。

MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 をインストールした場合、このビューは、デフォルトで有効になります。以前のバージョンからアップグレードした場合、このビューを有効にするには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` プロパティ（`cmxserver.properties` ファイル内）を `true` に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

子孫レコードのマージカスケード

ビジネスエンティティモデルを使用する場合は、マージプロセスにより、子レコードと子孫レコードでマージカスケードが実行されます。

- ルートレベルでは、マージプロセスによってビジネスエンティティのルートレコードのデータがマージされます。
- 子レベルで、親対子のリレーションが 1 対 1 のリレーションの場合、マージプロセスによって、兄弟の子レコードがマージされます。マージプロセスで子レコードを処理したら、同じマージストラテジを使用して各レベルの子孫レコードをマージしようと試みます。
- いずれかのレベルで、親対子のリレーションが 1 対多のリレーションの場合は、【一致するレコード】ビューで兄弟レコードを選択して、マージできます。

マージされたビジネスエンティティには、マージされたルートレコード、マージされた兄弟レコード、およびマージされなかったすべての子レコードと子孫レコードが含まれます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』のマージプロセスの説明を参照してください。

タイムラインビュー

【タイムライン】ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。【タイムライン】ビューは、サブジェクト領域モデルからビジネスエンティティモデルにアップグレードしたお客様のみ使用できます。

【タイムライン】ビューの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』の「有効期間内のデータ変更イベントの調査」を参照してください。

DaaS 用のビジネスエンティティサービス

ビジネスエンティティサービスを使用すると、DaaS プロバイダのデータを要求したり、ビジネスエンティティレコードを作成したりできます。また、ビジネスエンティティデータをインポートしたり、ビジネスエンテ

ィティデータに対する変更を更新したりもできます。ビジネスエンティティデータの読み取り、検索、インポート、および更新を行うには、REST API を使用します。

DaaS 用の REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

リレーション管理用のビジネスエンティティサービス

ビジネスエンティティサービスを使用すると、ビジネスエンティティのリレーションを管理できます。ビジネスエンティティ間のリレーションを作成、読み取り、更新、および削除するには、REST API を使用します。

リレーションを管理する REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティサービスの機能拡張

エンティティ 360 フレームワークをベースにした新しいビューの導入に伴い、ビジネスエンティティサービスは、これらのビューと新しい機能をサポートするように強化されました。

次の表は、ビジネスエンティティサービスで改良された機能をまとめたものです。

ビジネスエンティティサービス	要素および属性	要求	応答
MergeBE	<ul style="list-style-type: none">- MERGE 要素- contentMetadata=MERGE- contentMetadata=BVT	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードがマージする方法を制御する- 子孫レコードをマージする方法を指定する- マージで優先するレコードを指定する	
PreviewMergeBE	<ul style="list-style-type: none">- contentMetadata=[MERGE BVT]- MERGE 要素	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードをいつ照合するかを制御する	
ReadBE	<ul style="list-style-type: none">- contentMetadata=BVT- historyDate	<ul style="list-style-type: none">- マージで優先するレコードを指定する- 履歴データを取得する日付を指定する	<ul style="list-style-type: none">- 指定した日付のビジネスエンティティデータ
WriteBE	<ul style="list-style-type: none">- MATCH 要素- MERGE 要素	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードをいつ照合するかを制御する- 子孫レコードをいつマージするかを制御する	
GetRelated	<ul style="list-style-type: none">- entityLabel- relationshipLabel- entityType- relationshipType	<ul style="list-style-type: none">- エンティティラベルでフィルタ- リレーションラベルでフィルタ- エンティティのカンマ区切りリストでフィルタ- リレーションのカンマ区切りリストでフィルタ	<ul style="list-style-type: none">- 設定したリレーションと適用したフィルタに基づく、指定されたルートレコードの関連レコードのリスト

ビジネスエンティティサービス	要素および属性	要求	応答
ListHistoryEvents	<ul style="list-style-type: none"> - historyPeriod - granularity 	<ul style="list-style-type: none"> - データを取得する日付範囲を指定する - グループ履歴の詳細レベルを指定する 	<ul style="list-style-type: none"> - 指定した日付のビジネスエンティティデータ - 履歴イベントのグループ
GetHistoryEventDetails	<ul style="list-style-type: none"> - eventID 	<ul style="list-style-type: none"> - 履歴イベントの ID を指定する 	<ul style="list-style-type: none"> - 履歴イベントの詳細

BVT バージョンの抽出

ベストバージョンオブトゥールズは、タイムラインが有効なベースオブジェクトの有効期間の範囲で取得できます。MDM Hub コンソールのバッチビューアツールで「BVT バージョンの抽出」バッチジョブを実行するか、または executeBatchExtractBVTVersions SIF API を実行します。

詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

未処理インデックスインジケータ

検索可能なフィールドのプロパティを更新すると、一部のインデックスが古くなり、未処理になる場合があります。「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブを実行すると、古くなったインデックスをクリーンアップできます。ノードで再インデックスが必要になると、MDM Hub コンソールのバッチビューアツールに、子ビジネスエンティティノードへの警告アイコンが表示されます。

警告アイコンの詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

検索結果のソート

[ビジネスエンティティの検索] REST Web サービスを使用すると、検索結果を複数のフィールドで昇順または降順にソートできます。

[ビジネスエンティティの検索] REST Web サービスの詳細については、『*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Oracle GoldenGate 12 のサポート

Oracle GoldenGate バージョン 12.1.2.1 は、MDM Multidomain Edition とともに使用します。

Oracle 環境があって、9.0.1 または 9.1.0 からより新しいバージョンの MDM Multidomain Edition にアップグレードする場合は、Oracle GoldenGate ソフトウェアを更新する必要があります。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 7 Zero Downtime を使用したアップグレードガイド*』を参照してください。

ActiveVOS データベース接続の詳細

埋め込み ActiveVOS をインストールまたはアップグレードするときに、ActiveVOS^(R)データベース接続が検証されます。

MDM Multidomain Edition のインストールまたはアップグレード中に、埋め込み ActiveVOS をインストールまたはアップグレードすると、ActiveVOS データベース接続の情報が build.properties ファイルに保存されます。

IBM DB2 環境では、アップグレード前に、ActiveVOS データベース接続プロパティを <MDM Hub installation directory> MDM Hub のインストールディレクトリ >/hub/server/bin の build.properties ファイルに追加します。

次のサンプルは、サンプルエントリが含まれる ActiveVOS データベース接続プロパティを示しています。

```
activevos.db.type=db2
activevos.db.server=localhost
activevos.db.port=50000
activevos.db.user=AVOS
activevos.db.dbname=INFA102
activevos.db.schemaname=AVOS
activevos.db.jdbc.url=jdbc:db2://localhost:50000/INFA102
activevos.b4p.url=http://localhost:9080/active-bpel/services/AeB4PTaskClient-taskOperations
```

リソースキット

BESExternalCall フォルダには、ビジネスエンティティサービスのカスタムロジックと検証を実装するためのサンプル Java コードが含まれています。ビジネスエンティティ実行ロジックの特定のステップ用の外部コールアウトを設定することが可能です。外部コールアウトを使用するには、bes-external-call.ear ファイルを作成して、アプリケーションサーバーにデプロイする必要があります。

BESExternalCall フォルダには、サンプルの custom-logic-service.wsdl ファイルが含まれています。このファイルには、外部コールアウト用の XML スキーマ定義 (XSD) が記述されています。外部サービス、操作、メソッドと、サービスメソッドが交換するデータ型を理解するには、WSDL ファイルを使用します。BESExternalCall フォルダ内にある Ant のビルドファイル (build.xml) を使用して、bes-external-call.ear ファイルを作成します。

外部 Web サービスの設定とデプロイの詳細については、『*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*』および『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。

マニュアル

この節では、バージョン 10.2 の MDM Multidomain Edition ドキュメントセットの重要な変更点について説明します。

Informatica MDM Multidomain Edition インフラストラクチャ計画ガイド-新規

『*Informatica MDM Multidomain Edition インフラストラクチャ計画ガイド*』には、MDM Hub 環境のインフラストラクチャとアーキテクチャの計画に必要な情報が記載されています。また、インストールトポロジの理解と決定に役立つ、インストールトポロジの例も記載されています。このガイドの対象読者は、インフラストラクチャの計画者、マスタデータ管理ソリューションの設計者、およびビジネスマネージャです。

Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド-再構成

このガイドには、次の 2 つのバージョンがあります。

- 新規のお客様向けの『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド*』。このガイドには、エンティティ 360 フレームワークおよびビジネスエンティティデータモデルをベースにしたビューに関する説明が記載されています。

- 製品をアップグレードするお客様向けの『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド* (従来のビューの説明を含む)』。このガイドには、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド*』のすべての内容に加えて、サブジェクト領域データモデルをベースにした従来の IDD ビューに関する内容が記載されています。

Informatica MDM Multidomain Edition Informatica **エンティティ 360 フレームワークガイド-廃止**

『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica エンティティ 360 フレームワークガイド*』は廃止されました。このガイドで説明されていた機能に関する情報は、『*Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド*』に記載されています。

Informatica プラットフォームログ

MDM Hub では、Informatica プラットフォームプロセスの設定ログメッセージを保存する `informatica-mdm-platform.log` を生成します。

`informatica-mdm-platform.log` は次のディレクトリにあります。

<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/logs

変更点 (10.2)

ライセンスファイル

バージョン 10.2 では、MDM Multidomain Edition のライセンスファイルが更新されました。

注: アップグレードする場合、MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 のソフトウェアを要求するときに、最新のライセンスファイルを要求してください。

MDM Hub ユーザーの電子メールアドレス

バージョン 10.2 では、MDM Hub ユーザーは、有効な電子メールアドレスを指定する必要があります。以前は、電子メールアドレスの指定は任意でした。

注: アップグレードを行う場合は、以前 Hub コンソールで作成したユーザーに有効な電子メールアドレスが関連付けられていることを確認してください。

ユーザーの補足情報を編集する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 セキュリティガイド*』を参照してください。

ソースシステムキーの保持

バージョン 10.2 では、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードと次回以降のすべてのデータロードでソースシステムキーが保持されます。

以前は、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードのみでソースシステムキーが保持されていました。

メタデータキャッシュ

バージョン 10.2 では、MDM Hub は、Infinispan を使用してメタデータキャッシュを実行します。

以前は、MDM Hub は、JBoss Cache を使用してメタデータキャッシュを実行していました。

レイアウトエディタ

バージョン 10.2 では、プロビジョニングツールのレイアウトエディタが、レイアウトデザイナーに置き換えられています。

レイアウトデザイナーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

マージ解除

バージョン 10.2 では、タスクをトリガするようにロールを設定し、同じロールでそのタスクを処理するように設定すると、エラーが発生し、タスクが処理されません。

マージタスク

バージョン 10.2 から、新しい [一致するレコード] ビューは、ビジネスエンティティベースを使用するマージタスクを処理するために使用できます。

サブジェクト領域ベースの ActiveVOS ワークフローアダプタを使用する場合は、レガシーの [一致] ビューとレガシーの [XREF] ビューを使用します。これらのレガシービューを使用してタスクを作成するには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` を `false` に設定します。バージョン 10.2 にアップグレードすると、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` はデフォルトで `false` になります。

バージョン 10.2 より前に作成されたすべてのマージタスクは、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` 設定に関係なく、レガシーの [一致] ビューで開きます。エンティティ 360 フレームワークを有効にすると、バージョン 10.2 で作成されたマージタスクは、エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューで開きます。

バージョン 10.2 より前に作成されたすべてのマージタスクは、レガシーの [一致] ビューで開きます。エンティティ 360 フレームワークを有効にすると、バージョン 10.2 で作成されたマージタスクは、エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューで開きます。

トランスフォーメーション

バージョン 10.2 では、ビジネスエンティティのデータをクレンジング、標準化、検証するようにプラットフォームトランスフォーメーションを設定できません。

以前は、ビジネスエンティティのデータをクレンジング、標準化、検証するようにプラットフォームトランスフォーメーションを設定できました。

以前のバージョンからアップグレードする場合、設定済みのプラットフォームトランスフォーメーションを使用するには、MDM Hub コンソールのクレンジング関数ツールで、IDQ ライブラリを追加します。これにより、プラットフォームトランスフォーメーションの代わりに、ライブラリ内のクレンジング関数を使用できます。IDQ ライブラリ内のクレンジング関数は、プラットフォームトランスフォーメーションに関連付けられた Web サービスを呼び出すことができます。

リソースキット

バージョン 10.2 では、カスタム Web サービスおよびワークフローを簡単に作成できるように、リソースキット内に次のファイルが追加されています。

- `informatica-bpm-adapter.jar` ファイルおよび `siperian-server-pkiutil.jar` ファイル。追加の `SiperianClient` ライブラリクラスです。これらのファイルを使用して、MDM Hub と対話するカスタム Web サービスを作成できます。
- `avossdk.zip` ファイル。このファイルには、ActiveVOS Orchestration プロジェクトと関連ライブラリが含まれています。MDM Hub のワークフローを作成する場合は、Orchestration プロジェクトを ActiveVOS Designer にインポートします。これにより、カスタムワークフローを実装できる、テンプレートワークフロープロジェクトが作成されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 リソースキットガイド*』を参照してください。

保留状態のビジネスエンティティ

バージョン 10.2 では、スマート検索を実行すると、その結果に保留状態のレコードを持つビジネスエンティティが含まれます。保留状態とは、以前行われた変更に対する確認と承認プロセスが進行中であることを意味します。

IDD の検索結果では、ビジネスエンティティに保留中の変更がある場合は、その [説明] フィールドに [保留中] というプレフィックスが付いています。保留中のビジネスエンティティをビューで開くと、そのビジネスエンティティ名の近くに、保留中を示すアイコンが表示されます。保留状態のビジネスエンティティを更新することはできません。

iPad および iPhone 用の MDM アプリの廃止

Informatica MDM Mobile Multidomain Edition for Apple^(R)デバイス (MDM アプリとも呼ばれる) は、廃止されました。デバイスが多様化する中で、お客様やパートナー様がモバイル MDM サイトまたはアプリを容易に作成できるようにするために、Informatica では、HTML5、Angular.js、Bootstrap などの最新の Web 標準に準拠した、応答性の良いインターフェースを開発しています。

ビジネスエンティティスキーマの生成

バージョン 10.2 では、プロビジョニングツールの [パブリッシュ] ボタンをクリックすると、ビジネスエンティティスキーマが生成されます。

以前は、[BES の生成] ボタンをクリックしてビジネスエンティティスキーマを生成してから、[パブリッシュ] ボタンをクリックする必要がありました。

詳細については、『*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

プロキシロール

プロキシロールは、バージョン 10.2 ではサポートされていません。プロキシロールは、プロキシユーザーを設定するために使用できる定義済みのロールです。プロキシロールには読み取り特権と実行特権があります。これらの特権は変更できません。

プロキシロールが必要な場合は、10.2 EBF 2 または 3 を適用するか、10.2 HotFix 1 にアップグレードする必要があります。